

第3章 志教育実践事例

1 小学校編

◇ 教科にかかわる実践事例	32
低学年部 32～ 中学年部 44～ 高学年部 49～	
◇ 領域にかかわる実践事例	52
低学年部 52～ 中学年部 55～ 高学年部 62～	
◇ 教科・領域にかかわる実践事例	83
◇ その他の教育活動にかかわる実践事例	86

実践名：「支援学校の友達と仲良くなろう」

教科：生活科（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 6月21日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 障害のある友達と一緒に活動し、仲良く交流する。（かかわる）
- ・ 障害のある友達に対して、ともに活動しようとする気持ちをもつ。（もとめる）
- ・ いろいろな障害のある友達が支援学校で学んでいることを知る。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 支援学校の友達のことや活動内容を知り、自分たちがどんな行動をすればよいか話し合う。

- ・ 自分で歩けなくて車椅子に乗って移動する子や、うまく話せない子がいることを知り、どんなふうに接すれば支援学校の友達が喜んでくれるかを考える。

2 支援学校へ移動し、交流会に参加する。

- ・ あいさつをする。
- ・ 自己紹介をする。
- ・ 一緒に活動する。（手遊び、ラーメン体操、バルーン等）
- ・ 感想発表をする。
- ・ 握手をして、さよならのあいさつをする。



3 教室に戻り、楽しかったことやうれしかったことなどを発表する。

- ・ 楽しかったこと、うれしかったこと、支援学校の友達と話したことなどを発表し、思い出を絵に描く。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 障害のある友達に対して、「かわいそう」という気持ちを抱かせるのではなく、自分たちにも苦手なところがあり、それと同じように人にはそれぞれ苦手なことがあることを理解させるようにする。
- ・ 苦手なことで困っている人がいたら、手伝ってあげようという気持ちをもたせ、少しでも行動にうつせるように支援していく。

◎ 実践を振り返って

成果 話だけではなく、一緒に自己紹介や手遊びやする中で、支援学校の友達のことを子どもたちなりに理解していた。また、体を使って一緒に活動したり、同じ空間で楽しさを共有したりすることで、距離感が縮まったように思える。

課題 志教育という観点で考えていくと、この活動を経験した児童が、将来自分たちの家庭や地域社会の中で共生や福祉という面で貢献できるように、志田小と古川支援学校との交流会（年2回、6年間で全12回）をしっかりと児童の記憶と記録に残していく必要がある。

その他 2回目（9月）の交流会も支援学校で行った方がよいか、検討する。

実践名：「秋と遊ぼう（古代の里へ行こう）」

教科：生活科（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 11月 6日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 2年生と一緒に秋探しや木の実拾いをする。（かかわる）
- ・ 夏ごろとの様子の違いに気付いたり，木の実の落ちていそうな場所を探させたりする。（もとめる）
- ・ 自然の植物を大事にしたり，遊具の使い方の約束を守ったりする。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 2年生と一緒に古代の里へ行き，秋を感じながら楽しく遊んだり，木の実等を探したりする。

- ・ 古代の里で，木や草・花等を見たり，冷たい風を感じたりしながら，秋らしいものを探したり拾ったりする。
- ・ 拾った物を使ったり，草の坂を利用したりして，いろいろな遊びを考え，みんなで楽しく遊ぶ。
- ・ 見つけた秋の物や，秋らしいことをみんなに紹介する。

2 学校へ戻り，絵を描いたり，作文に表したりする。

- ・ 古代の里で遊んで楽しかったことや，気付いたこと，感じたことなどを絵や文章に表す。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 自然とかかわり，季節の変化を感じたり，自然の良さを感じたりすることができるよう，事前に日本の四季のすばらしさを落葉樹の変化などを見せたりしながら，美しい自然に感動できるような心をもたせておく。
- ・ 自然の中で友達とかかわり，自然な優しさを表現できるような言葉がけを心掛ける。

◎ 実践を振り返って

成果 学校の校庭では見られない木や草，ススキ等もたくさんあり，またドングリもたくさん落ちていたので，子どもたちは喜んでドングリを拾ったり，草木で遊んだりしていた。また，風の冷たさを感じながらも，青く高い空を雲が流れる様子を見ることもできた。

課題 草木で秘密基地を作るといったような昔ながらの遊びまではできなかった。時期が遅すぎて寒かったこと，時間が短かったことも原因だが，今の子どもたちの中からそういった発想は出てこないのかもしれない。もっと，大胆な自然の遊びもできるような計画を立ててみたい。

教科にかかわる実践事例

大崎市立岩出山小学校

実践名：「花いっぱいになあれのかい」

教科：生活科（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年11月28日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- 1 次年度に入学してくる幼稚園の子供たちを招待して、学校で学習したことを発表したり、自分たちが準備した遊びをとおしてかかわりを深めたりすることで、小学校に入っからの自分の成長を実感することができる。（かかわる・はたす）
- 2 自分たちが栽培してきたあさがおの成長について振り返り、できた種をプレゼントすることで、その生命がつながっていくことや、命の大切さに気付くことができる。（かかわる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 はじめのことば
- 2 うた『歌よありがとう』
- 3 あさがおはっぴょう
(あさがおの成長の様子について、クイズ形式で発表)
- 4 おもちゃであそぼう
 - ・どんぐりごま
 - ・どんぐりロケット
 - ・まつぼっくり剣玉
 - ・どんぐりパズル
 - ・おちばのしおり
- 5 プレゼント『あさがおのたね』
- 6 かんそうはっぴょう
- 7 おわりのことば



あさがおはっぴょうする子供たち



どんぐりごまで遊ぶ子供たち



まつぼっくり剣玉で遊ぶ子供たち



プレゼントを渡す子供たち

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

これまでの学習を振り返り、幼稚園の子供たちに伝えるという活動を設定することで、自分たちの遊びや生活を工夫しようとする気持ちを育むとともに、自分自身の成長を振り返り、自分でできるようになったことや役割が増えたことに気付かせる。また、これまでの学習の様子をプロジェクターを使って映し出し、園児に小学校の様子をイメージさせる。

◎ 実践を振り返って

成果 会に向けての準備を進める中で、これまでの自分たちの活動を振り返ったり、かかわってきた人々に対しての思いを再確認したりしながら、自分自身の成長を実感することができた。また、幼稚園にとっては、小学校への期待感もたせ、不安感を軽減するよい機会となった。

課題 あさがおの成長を振り返る場面で、クイズを取り入れたり絵に表したりして発表したが、自分たちが収穫した種を育ててもらふことで、生命がつながっていることや命の大切さを考えさせる上でもう一つ手立てがあるとよかった。

その他 事前の打合せや準備等での幼・小の連携の在り方を今後さらに検討していきたい。

教科にかかわる実践事例

加美町立鹿原小学校

実践名：「園・小交流会」

教科：生活科（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年1月28日

◎ 志教育にかかわるねらい（ **かかわる** ・ **もとめる** ・ **はたす** ）

- ・ 年長組の園児を招待し、小学校のことを教えたり、一緒に遊んだりして交流を深める中で、温かく新1年生を迎えようとする気持ちを高める。
- ・ 入学してからできるようになった様々なことを振り返ったり、それらの発表のために練習したりする中で、自分のできることを精一杯表現しようとする態度を育てる。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 単元のめあて、活動の内容を知る。

- ・ 園の年長さんを招待して、小学校のことを教えてあげたり、できるようになったことを発表したりすることを知る。
- ・ 教えてあげたいことや、年長さんへのプレゼントを考えたり、自分ができるようになったことは何かを振り返ったりする。

2 教えてあげること・できるようになったことなどを発表するための練習をする。

- ・ 役割分担を考える。
- ・ 年長さんへのプレゼントを作る。
- ・ できるようになったことを発表するための練習をする。

3 園の年長さんを招待し、交流会を行う。

4 交流会を振り返る。

- ・ 交流会を振り返り、絵と文に表す。
- ・ 園の先生にお礼の手紙を書く。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- 役割分担の明確化により、一人一人が役割を果たせるように支援し、達成感を味わわせる。
- 他教科との関連を図り、学習してきたことの発表の場とすることで、教科への学習意欲も高めさせる。



行事を
紹介しま
す。鹿原
四月には、
全校
生が楽し
みなが
ります。

小学校では、
みんながど
んなにお勉
強か。おど
る。お勉
強は、おど
る。お勉
強は、おど
る。



◎ 実践を振り返って

成果 朝顔の種を数えて袋に詰める活動は算数と関連し、行事を振り返って紹介文を書く活動は国語と関連して活動した。教師にとっては、志教育が普段の教育活動にたくさん詰まっていることを実感するものとなり、児童にとっては、他教科の学習意欲をさらに高めることのできる意義ある活動になった。

課題 小規模学級のメリットを生かし、個人の役割や発表を充実させることで、本当に一人一人の児童が「もとめる・かかわる・はたす」に近づくことができるような交流の形態、発表の形を考えることが必要である。

その他 こども園の先生方との綿密な連絡・調整が必要で、今回のように協力が得られるように、年度当初から大筋を決めていることが望ましい。

教科にかかわる実践事例

美里町立小牛田小学校

実践名：「3つのかずのけいさん」

教科：算数科（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年9月19日～9月26日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 目標を立てて取り組み続けることができるようにする。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 3つの数の加法の式の意味を理解し、その計算をする。
- 2 3つの数の減法の式の意味を理解し、その計算をする。
- 3 3つの数の加減混合の式を理解し、その計算をする。
- 4 ブロックの動きを見て、3つの数の加減計算の式に表すことや、問題作りを通して3つの数の加減計算の理解を深める。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 最後まであきらめないで取り組むことができるようにさせる。
- ・ 友達と自分の考えた問題を出し合い、練習を行わせる。
- ・ 身近な問題作りを家庭学習で工夫して取り組ませる
- ・ 家庭学習で、自分から類似問題をやってみようとする意欲をもたせる。
- ・ 生活の中から問題場面を見付け取り組ませる。

◎ 実践を振り返って

成果 絵図の提示でより具体的に3口の数の場面の把握ができ、意欲的に最後まで問題解決に取り組むことができた。また、家庭学習でも類似問題に取り組み、進んで復習しようする意欲が見られた。

課題 3つの数の加法、減法、加減混合の計算練習には、意欲的な取組を見せたが、生活の中から問題場面を見付けて問題作りをする児童は、少数であった。

その他 学習支援員とのTT授業を行い、教材作りや類似問題作りなどがたくさんでき、より意欲的に学習に参加し、自力解決に向けて取り組み続ける事ができた。

教科にかかわる実践事例

美里町立中埜小学校

実践名：「手づくりおもちゃでいっしょにあそぼう」

教科：生活科（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年 1月23日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・もとめる・はたす）

- ・ 手作りのおもちゃで園児と楽しく遊ぶ中で、相手の喜びを実感することで、人と関わることの楽しさが分かり、自分自身の成長に気づくことができる。（かかわる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 幼稚園の人たちと楽しく遊ぼうというねらいをつかみ、おもちゃ作りを工夫する。
 - 身近な材料を使って、楽しく遊べるようなおもちゃや飾りを作る。
 - 友達と情報交換をしながら、作ったおもちゃで遊び、もっと楽しく遊べるように工夫したり、もっときれいになるように改良したりする。
- 2 幼稚園の人たちを招待するための準備をする。
 - 自分が作ったおもちゃで園児に楽しく遊んでもらうためには、おもちゃや遊び方をどう工夫したらよいかを話し合い、グループに分かれおもちゃ作りをする。
 - 全体の進め方も自分たちでできるように、役割を決め準備する。
- 3 幼稚園の人たちを教室に迎え、一緒に、手作りのおもちゃで楽しく遊ぶ。
 - 初めにお迎えの会をし、「きらきらぼし」の合奏を聞かせ、「しろくまのジェンカ」で一緒に遊ぶ。
 - グループごとに遊びのコーナーを作り、優しく教えてあげ楽しく遊べるようにする。
こままわし カルタとり ふくわらい
すごろく けんだま



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 児童の発想を生かして活動の計画を立てさせるが、ねらいや場所、時間などに合わせて活動できるように、助言や手助けをする。
- ・ グループで協力して計画を立てたりおもちゃ作りを進められるように、話し合いや活動の時間を保証し、がんばったことを評価しながら進めさせる。

◎ 実践を振り返って

- 成果**・ 児童館で教わったコマ作りを教え合ったり、カルタの言葉や絵をすべて自分たちで考えたり、児童の自主性や創造性が育った活動になった。
- ・ いつもは上の学年の人たちにお世話になることが多いが、幼稚園の人たちが分かったり喜んだりすることを意識して活動を進めることができるようになった。
- 課題**・ 実際の活動の中で、幼稚園の人たちへの話しかけ方や、誘導の仕方がよく分からない人が多かった。関わり方に対する活動中のアドバイスも必要だった。

教科にかかわる実践事例

大崎市立西大崎小学校

実践名：「ハッピーおもちゃまつり」

教科：国語科・生活科（1・2年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年11月 1日～12月 6日

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 「おもちゃまつり」に来てくれた人に楽しんでもらえるように、友達と協力して準備したり、お世話したりする。（かかわる）
- ・ グループの一員として、自分たちの店の企画や運営を工夫し、人の役に立つ喜びを味わう。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 自分たちの出店の計画を立てる
- 2 楽しんでもらえるように考えながら、出店の準備をする。
- 3 係分担を決めて練習する。
- 4 「ハッピーおもちゃまつり」で出店の運営をし、上級生や教職員とかかわる。
- 5 感想をカードにまとめる



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- 1 1・2年合同なので、主として2年生をリーダーとして責任をもたせ、グループで協力して活動できるようにする。
- 2 準備の途中で、互いの進み具合やアイデアを紹介し合い、友達の工夫を自分たちの活動に生かして、より楽しんでもらえるようにする。



◎ 実践を振り返って

成果

- 多くの人にお店に来てもらってうれしかったという感想が多く、人の役に立つ喜びや人とかかわる楽しさを味わうことができた。

課題

- より多くの人とかかわるために、家族や地域の人々の参加も考えて計画を立ててもよかった。

実践名：「どきどきわくわくまちたんけん」

教科：生活科 1・2年（複式学級）

◎ 実施時期（期間） 平成25年6月13日、26日、12月6日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 地域の人たちとかかわり、体験を通して郷土への関心を高める。（かかわる）
- ・ 地域の良さを発見し、工夫して伝え合う。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ



1 「おにこうべ ここは どこでしょう」クイズを行う。

- ・ 地域の様子を撮った写真を用意し、まち探検への興味・関心を高める。

2 まち探検に出かけ、学校周辺と鬼首商店街の様子や位置関係を知る。（6月13日）

- ・ 探検前から電子地図を利用し、学校から見た自分の家の位置や、商店街の方向をつかませ、地図に慣れさせる。
- ・ デジタルカメラで、自分が見つけたものを撮影し、白地図やまとめの発表に活用する。

3 2回目の町探検の計画を立てる。

- ・ 1回目のまち探検から、さらに詳しく知りたい店や施設、会いたい人について話し合う。

4 2回目のまち探検を行う。（6月26日）

- ・ 鬼首公民館を見学し、施設の様子や利用の仕方を知る。
- ・ ガソリンスタンド、酒店、駐在所に働いている方にインタビューをすることで、店の様子や仕事の内容を知る。

5 まちたんけんて発見したことを発表する。（12月6日）

- ・ ICTを活用し、各自が発見したことを写真や言葉にまとめ、分かりやすく伝える工夫をする。
- ・ 保護者やまち探検でお世話になった地域の方々を招き、学習の成果を発表する。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ まち探検では、1回目に商店街の様子や位置関係をつかみ、2回目にはさらに詳しく知りたいと感じたお店や施設、人に重点を置き、関わりを持たせた。
- ・ 地域を社会（施設・お店・危険な場所）・人・自然の3つの視点で見学するように指導し、見つけてきた物をカードの色で分類しながら白地図にまとめたり、発表を行ったりした。

◎実践を振り返って

成果 2回探検に行き、そこで働いている人達に繰り返し関わることで、自分たちの地域にいる人や場所に親しみを持つことができた。

課題 学校周辺を中心としたまち探検になったが、郷土への愛着をさらに深めるために、地域の特色を活かした産業に携わっている方との交流も持てるように計画を組み立てたい。

実践名：「どきどきワクワクまちたんけん」

教科：生活科（2年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 11月 6日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 千田清掃で働いている皆さんと接し、質問したり一緒に活動したりする。（かかわる）
- ・ 循環型社会の実現や地域の活性化を目指している千田清掃の取り組みについて知る。（もとめる）
- ・ 地域の中でのこれからの自分の行動について考える。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 古代の里で「秋と遊ぼう」体験

- ・ 古代の里の自然を満喫し、自然の良さを感じるとともに、美しい自然をそのままに残したいという思いをもたせる。



2 千田清掃見学

- ・ 菜の花の種を絞ってできた油や廃油を利用して作った油を燃料として、物を動かしたり、暖房として使ったりすることができること、また、その燃料は空気を汚さないで自然環境に良いことなどの説明を聞く。
- ・ バイオ燃料で動くゴーカートに試乗し、楽しむ。

3 お礼の手紙を書く

- ・ 千田清掃で説明してくださった方、一緒にゴーカートに乗って運転してくださった方々にお礼の手紙を書き、自分が感じたことを文章に残す。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 難しい言葉を理解したり覚えたりすることではなく、実際に見たり聞いたり、体験したりして感じたことを生かして、これから自分たちがどんなことを考えていきたいかを話し合わせるなどして、授業を進めていく。

◎ 実践を振り返って

成果 内容的に難しいかと思ったが、千田清掃の方が低学年の児童にもわかるように絵や実物を見せながら、簡単な言葉で説明してくれたので、2年生でも理解できた。身近な菜の花の種や天ぷら油から作った油で、自分たちが乗ったゴーカートが動くことに驚くとともに、身近だからこそ「自分たちでも何かできるのでは」と可能性を感じさせられた。

課題 菜の花の種をいただいたが、花壇にまくか他の事に使うか迷っているうちに時期が過ぎてしまった。今回の学習を生かした利用法を考えたい。

教科にかかわる実践事例

大崎市立志田小学校

実践名：「どきどきワクワクまちたんけん」

教科：生活科（2年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 4月～7月

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ お店で働いている店員さんや、交番で働いているおまわりさん・グループホームのみなさんに接し、質問したり一緒に活動したりする。（かかわる）
- ・ 職業として、店員さんやおまわりさん・グループホームで働いている人たちの仕事について知る。（もとめる）
- ・ 地域の中でのこれからの自分の行動について考える。

（はたす）



◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 自分たちの地域にはどんな店や施設などがあるか話し合い、見学してみたいところを決める。

- ・ お店、交番、公民館、支援学校、グループホーム、神社、お寺など

2 見学の計画を立てる。

- ・ 地図を見ながら、行く方向を考えながら、見学場所を決め、質問したいことをメモしておく。

3 校外学習へ出かける。

- ・ ファミリーマートと志田地区西交番
- ・ グループホーム「風とわたぼうし」と中川魚店、西光寺
- ・ 志田地区公民館と熊野神社



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 自分たちで計画を立てることを重視し、なぜ校外学習へ出かけ、何を知りたいのかをしっかりと認識させて出かけるようにする。校外学習で見たり聞いたり感じたりしたことを、事後に作文や感想文、お礼の手紙といった形で書き留めておく。



◎ 実践を振り返って

成果 自分たちが住んでいる地域の中にも、様々な店や施設等があり、それぞれが人々の生活にとって、とても大切な場所であることを理解させることができた。

課題 これまでの自分とこれからの自分を考える時、校外学習で訪れた場所でのことがどう生かされるか、明確にできない部分もあった。

その他 歩いて行ける距離のところにも、これらの施設等があったのは良かったが、児童の人数が少ないとはいえ、交差点を通る時にはもう一人引率教員がほしかった。

実践名：「子供互市をしよう」

教科：生活科（2年）

◎ 実施期日(期間) 平成25年12月17日

◎ 志教育にかかわるねらい (かかわる)・もとめる・(はたす)

- ・グループで準備を進めたり、お店を開いたりすることで自分の役割や責任を果たす。(はたす)
- ・一年生を招待して互市を開くことで、進んでかかわる。(かかわる)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1. 互市見学をする。

- ・互市について知っていることをまとめる。
- ・家族に互市について尋ねる。
- ・互市見学をし、分かったことや気付いたことをまとめる。



2. 子供互市の準備をする。

- ・どんなお店を開くか考える。
- ・お客さんに楽しんでもらえるおもちゃを考えて作る。
- ・看板や招待状を作成する。



3. 子供互市を開く。

- ・店員となり、1年生を自分たちの店に招待する。

4. 活動のまとめ

- ・子供互市を開いた感想を絵日記に書く。

◎指導のポイントや手立ての工夫

- ・互市を見学して、お店の人たちがたくさんのお客さんに来てもらうためにしていた工夫に気付かせる。
- ・自分たちよりも小さい1年生を招待することを伝え、1年生でも楽しく遊べる活動を考えたり、1年生にも分かりやすい説明の仕方を工夫させたりする。



◎ 実践を振り返って

成果： 相手が1年生であることを考え、どのように接するべきかを考えながら活動することができた。また、自分たちが一生懸命考え準備したお店で、人に楽しんでもらうことの喜びに気付くことができた。

課題： しっかりと役割を果たせた児童と、そうでない児童の個人差が出てしまった。より良い役割の果たし方を考え、向上心をもって取り組めるような働き掛けが必要である。

教科にかかわる実践事例

美里町立小牛田小学校

実践名：「ならべてつないで」

教科：図画工作科（２年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年10月

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる）・もとめる・はたす）

- ・ 机や遊具などの形・色に関心をもち、友達と協力して造形的な活動に取り組もうとする気持ちを育む。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 机などを基に、思いついた並べ方やつなぎ方を思い思いに試す。
- 2 新聞紙やスズランテープなどの材料の特徴を生かし、並べた机を包んだり、つないだり飾り付けたりする。
- 3 作ったものを見たり中に入って楽しんだりして、友人のつなぎ方や包み方の工夫、感じの違いなどに気付く。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 友達のアイデアに気付かせるよう声掛けをする。
- ・ 自分にできないことは、互いに協力し合いながらするとよいことに気付かせる。
- ・ 鑑賞の時間を単元の最後に位置付け、互いのよさを言葉に表して共感できるようにする。



◎ 実践を振り返って

成果 新聞紙を使って切ったり貼ったり、並べたものを包んだりした活動で、楽しいアイデアや真似をしてみたいアイデアを交流しながら活動する様子が見られた。また、グループが気の合う者同士なので、楽しく作りながら会話も弾み、制作意欲を高めることにもつながった。素材は新聞紙と広告紙、スズランテープとシンプルで量も十分にあったことも、互いのコミュニケーションを妨げない要因だった。

課題 天候に左右されないようにと考え、活動場所は教室だったが、制作物の一時的な保存ができなかった。また、活動や片付けの時間を十分に取ることができた一方で、感想を交流する時間は十分に取ることができなかった。

実践名：「太陽の光を調べよう」「明かりをつけよう」

(太陽光発電やバイオ燃料について知ろう)

教科：理科（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年11月21日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 自分たちが住んでいる大崎市に地球環境に役立つ取り組みをしている企業があることを知り、その取り組みについて知ろうとする。（かかわる）
- ・ 実際にバイオ燃料を作ったり、太陽光が電気に変換されて物を動かしたりしている場面を見たり、体験したりする。（もとめる）
- ・ 振り返りで、太陽光やバイオ燃料を使ったエネルギー利用がなぜ必要なのかを考え自分たちが電気を大切にしていこうと考える（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 「太陽の光を調べよう」「明かりをつけよう」の学習

- ・ 太陽の光の力を、黒い紙を、虫眼鏡で集めた太陽の光で焼くことができるという事実からとらえる。（太陽熱）
- ・ 「明かり」をつけて、明るくするためには、電気の力が必要なことを知る。
- ・ 電気は光になるだけでなく、どんな働きをするか、また電気はどこから生まれてくるのか、自分たちの知っていることを発表し合う。

3 菅原工務店「アイム」見学

- ・ メガソーラー発電システムについての説明を聞く。
- ・ 光が当たると動く電車模型等を見て、自分たちで光を当てたり遮ったりしてみる。

4 千田清掃見学

- ・ 菜の花の種や使用済み天ぷら油などからできるバイオ燃料について説明を聞く。
- ・ 菜の花の種を絞って油が出てくるところを見る。
- ・ バイオ燃料で動くゴーカートに試乗する。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 実体験を重視し、児童の驚きや印象を大切に、地球環境を守るために自分も何か考えていこうと自然に思えるようにしていく。

◎ 実践を振り返って

成果 身近にある菜の花の種や廃油から燃料ができること、太陽光から電気エネルギーができることを知り、また実際に見たことにより、エネルギーの大切さを感じるとともに、地元にそのような企業があることに感動し、自分たちにも未来のエネルギーについて考えていこうと思えたようである。

課題 雨天や曇りの日は太陽光で動く模型を見るのが難しいので、晴れた日に見ることができるよう、学校で見せられる物なども作成しておきたい。

教科にかかわる実践事例

美里町立小牛田小学校

実践名：「農家の仕事」

教科：社会科（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年9月～10月

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・まとめる・はたす）

- ・ 地域の農作物の生産にかかわる仕事について、その特色や他地域などのかかわりを理解する。（かかわる）
- ・ 具体的に調べて分かったことをまとめながら、農家の仕事と自分たちの生活とのつながりについて、考えたことを表現することができる。（まとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 家の人から聞き取りや美里町のパンフレットをもとに、地場産品を調べる。
- 2 調べた中から、北浦梨を取り上げ、どのようにして作られるかという課題意識をもたせる。
- 3 見学の計画を立てさせ、見学する。
- 4 実際に見学しインタビューしたり、観察したりしたことを整理する。
- 5 一人一人新聞にまとめる。
- 6 互いに発表を聞いて、農家の仕事と他地域と自分たちの生活とのかかわりに気付かせる。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 一人一人が課題をもって、インタビューや観察ができるように進めていく。
- ・ 美里町の農作物にかかわる農協・スーパー・農家などの協力を得ながら、活動を進めていく。
- ・ N I Eの関連で新聞にまとめる。（一番伝えたいこと・他に伝えたいこと）

◎ 実践を振り返って

成 果

美里町の特産である北浦梨について、パンフレットや家族からの聞き取りをし、興味をもって調べることができた。実際に収穫体験をし、農家の方の仕事や願いを知ることができた。家庭や買い物の際に、北浦梨を探したり、家族と話したりすることも増えてきた。

課 題

収穫の時期だけの見学であり、他の作業を見ることができないため、農家の人の工夫を実感するところまでは難しかった。

実践名：「くらしを守る（消防署見学）」

教科：社会科（４年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 5月1日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 消防署を見学し、消防署で働いている人に質問したり、体験活動をしたりする。
(かかわる)
- ・ 消防署の重要性を考えたり、職業として消防署の仕事について考える。(もとめる)
- ・ 家の中や地域の中での自分の行動について振り返る。(はたす)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 わたしたちの暮らしを守っている施設や設備について調べ、見学の計画を立てる。

- ・ 教科書等で学習した内容について、どんな所を見学して、どんなことを学んできたらいいか、学習計画を立てる。

2 「消防署」を見学する。

- ・ 消防署を見学し、消防署の方々が私のくらしをいろいろな面で守ってくれていること、そのために努力していることなどを知る。



3 人のためになる仕事について考える。

- ・ 消防署の他にもわたしたちのくらしを守るための仕事はいろいろあることを知り、それらの仕事のすばらしさを感じ取る。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ わたしたちが、この町で安心して暮らしているのは、そのために一生懸命に働いてくれている人たちがいるからだということを、目で見ても、耳で聞いて、体験を通して感じ取るようにさせる。また、体験するだけでなく、子どもたちなりの感想をもたせ、感想文やお礼の手紙として書かせ、残しておく。将来、自分の仕事を考える時に、この体験が少しでも生かされるよう、写真と一緒に児童に持たせておくようにしたい。

◎ 実践を振り返って

成果 消防署で働く人たちの声を直接聞き、消防署の仕事の大切さを知ることができた。消火栓や防火水槽が町の中にあり、火災から安全を守るための工夫を知ることができた。

課題 消防署見学だけでなく、DVDなどで火事の現場で実際に消火活動をしたり、レスキュー隊が誰かを助けている場面等を見せておくとよかった。

その他 消防署見学する学校が多い時期なので、ちょうど良い時期に見学に行けない場合もある。

実践名：「わたしたちの暮らし（MCM 見学）」

教科：社会科（4年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 9月～11月

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ リサイクル施設を見学し働いている人の話を聞いたり質問したりする。（かかわる）
- ・ リサイクルの重要性や自分の生活とのかかわりについて考える。（もとめる）
- ・ 家の中や地域の中での自分の行動について振り返り、これからどうしていけばよいか考える。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 「ごみの処理」について学習計画を立てる。

- ・ 教科書等で学習した内容について、どんな所を見学して、どんなことを学んできたらいかが、学習計画を立てる。

2 「クリーンセンター」を見学する。

- ・ 主に家庭から出される燃えるゴミについて、その多さや処理の仕方について説明を聞いたり、焼却施設を見学したりする。

3 「環境開発公社MCM」を見学する。

- ・ 主に会社や工場から出される粗大ゴミや家庭から出される粗大ゴミについて、その約80%が資源として再利用されることの説明を聞いたり、実際にその処理の仕方を見たりして理解する。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 自分たちの身の回りから出されるゴミ、使用しなくなった大きな物、燃えない物がどれだけあるかを実感し、それがそのままゴミとして捨てられているだけだと、この地球はどうなっていくのか想像させながら、学習を進めていく。そのゴミの多さは、それぞれの見学施設で、目で見て体感できるであろう。

また、逆に資源はどんどん減っていることを知らせ、再利用の大切さを理解させることも重要である。

◎ 実践を振り返って

成果 3Rの考え方を説明してもらったり、回収したものを一つ一つ手作業で分解・分別してリサイクルしている場面を見たりして、資源として再利用するための努力を知ることができた。また、会社で働く人の心構えについてもお話していただき、4年生として生活の中で今できる大切なことを確認することができた。

課題 「なぜ、ゴミを資源として再利用するようにならなければならないのか」を事前・事後の授業でもう少ししっかりと考えさせておきたかった。

その他 MCMには、東日本大震災で出た瓦礫もまだ山のように積まれていた。そのことから、児童にこのような会社の必要性を感じとらせたかった。

教科にかかわる実践事例

美里町立小牛田小学校

実践名：「響かせよう みんなで美しいハーモニーを！」

教科：音楽科（４年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年8月26日～10月3日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 郡音楽祭で発表する合唱や合奏の練習を通し、友達とよりよいハーモニーを作ろうとする気持ちを育てる。（かかわる）
- ・ 友達と旋律を重ねて演奏する美しさと楽しさを味わわせる。（もとめる）
- ・ 郡音楽祭に参加して、たくさんの友達の前で発表して達成感を味わわせる。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 パート決め（自分の役割を理解する。）
- 2 パート練習（同じパートの友達と協力し、練習していく。）
- 3 朝の会で練習（朝の歌の時間を利用して、合唱練習をする。）
- 4 中間発表（友達のパートの合唱や合奏を聞き合い、良いところや改善点などの情報を交換する。）
- 5 合わせ練習（他のパートに合わせながら合唱、合奏する。）
- 6 壮行会（練習の成果を全校に発表する。）
- 7 郡音楽祭（練習の成果を他校の友達に発表する。他校の表現の良いところを学ぶ。）

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 練習の成果を聴くことで、お互いの良い点や改善点に気付かせ、よりよい演奏をしようとする意欲へとつなげる。
- ・ 学校の代表であるという自覚をもたせる。

◎ 実践を振り返って

成果 お互いの音を聞き合い、リズムを合わせて合奏する力が付いた。
パート練習など、役割に責任をもって自分たちで行動できるようになった。

課題 練習時間の時数確保が難しかった。

実践名：「電力がうみ出す力」

教科：理科（5年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 5月14日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 電力会社の人たちの努力や工夫，思いなどを知る。（かかわる）
- ・ 自分たちが利用している電力がどのように発電されているのかを知り，電気エネルギーに対する興味・関心をもつ。（もとめる）
- ・ 自分ができる地球温暖化対策を考える。（はたす）



◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 生活の中での電気の役割について考える。

- ・ 自分たちの身の回りで，電力で動いているもの，電力で発光・発熱しているものを発表・紹介し合い，生活の中での電気の重要さに気付く。

2 鳴子ダム・鳴子水力発電所を見学し，発電システムについての説明を聞く。

- ・ 水力発電のシステムについて知る。
- ・ その他（火力・風力・原子力・地熱等）の発電システムについて知る。

3 将来の発電システムについて考える。

- ・ 地球温暖化対策として，どのような発電システムを考えていったらよいのか，また，現在の発電システムのベストミックスについて考える。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 実際に発電所を見学したり，電力会社で働く人たちの話を聞いたりすることにより，電気エネルギーの重要さを感じ取らせるとともに，そのシステムについて科学的に考えることの楽しさを感じ取らせ，「電力がうみ出す力」の学習への意欲付けとする。
- ・ 電気について学習していく中で，未来の日本の発電システムや自然環境について考えていける力となるように，学習計画を立てていく。

◎ 実践を振り返って

成果 発電システムやその大きさ，またそこで働く人の工夫や努力，思いなどを，実際に見たり話を聞いたりして知ることができた。

今回は，東北電力の技術部門の方が説明してくださったので，話に熱意が感じられた。自分の仕事に誇りをもって，世の中の人々のために一生懸命・誠実に仕事をしていることが，よく分かった。

課題 見学は鳴子発電所だったので，冬には難しいということで11月に行った。3学期の学習内容である「電力がうみ出す力」の導入（意欲付け）として鳴子水力発電所への見学を実施したが，時期として多少早過ぎた感もあった。

その他 理科だけでなく，総合的な学習の時間に，総合的に学習させていきたい内容であった。次年度の総合的な学習の時間の計画に入れてみたい。

教科にかかわる実践事例

大崎市立西大崎小学校

実践名：「おせちを作ろう」

教科：家庭科（５・６年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年12月17日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・もとめる・はたす）

- ・ 地域の方をゲストティーチャーとして招き、伝統料理である「おせち料理」を作り、会食を楽しむ。（かかわる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 おせち料理のいわれについて話を聞く。
- 2 グループごとにおせち料理を作る。
 - ・ 栗きんとん、ごぼうの肉巻き、にんじんとレンコンの煮物、紅白かまぼこ、黒豆、飾り南天
- 3 作った料理を皿に盛りつけをする。
- 4 みんなで会食をする。
- 5 感想を述べ、後片付けをする。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 協働教育の一環である「にしおおさき発見伝」の事業として行った活動であり、一緒に活動したい保護者にも参加してもらった。
- ・ 地区公民館を介して、ゲストティーチャーを招いた。



◎ 実践を振り返って

成果

- 公民館との連携もスムーズにいき、学校と地域の協働的な学習につながったことはとてもよかった。
- 普段作ったことがない「おせち」という伝統料理に触れたことで、子どもたちにも食文化を理解する良い機会になった。

その他

- 家族でおせち料理作りに挑戦してもらいたいという学校や公民館職員の願いもあり、冬休み前の活動として計画を立てた。



教科にかかわる実践事例 大崎市立鬼首小学校

実践名：「未来に生かす自然のエネルギー」

教科：国語（6年）

◎実施期日（期間）平成25年11月6日，11月7日，11月8日）

◎志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる（はたす）

- ・ 体験を通して得られた知識をもとに，さらに知りたいことについて視野を広げる。（もとめる）
- ・ 自分たちが生活する地域の良さを発見し，工夫して伝え合う。（はたす）

◎具体的な学習・活動の流れ



- 1 地域の自然について話し合い，自分たちの生活と自然とのかわりへの関心を高める。
 - ・ これまでに経験したことを話し合う。
- 2 教科書「未来に生かす自然のエネルギー」を読んで，持続可能な社会について意見を出し合う。
 - ・ 持続可能な社会について，各自が関心をもっていることを発表し合い，自分たちができることを考える。
- 3 グループ毎に再生可能なエネルギー源について調べ学習に取り組む。
 - ・ 水力発電，太陽光発電，風力発電，バイオマス発電について知る。
- 4 鬼首の自然を生かした再生可能なエネルギー源についてグループ毎に話し合い，分かったことや発見したことをまとめ，ポスターセッションで発表する。
 - ・ ICTを活用し，各自が発見したことを写真や言葉にまとめ，分かりやすく伝える工夫をする。
 - ・ 鬼首の町を流れる荒雄川の再生可能なエネルギー源としての利用について。
 - ・ 地域内に地熱発電所があり，再生可能なエネルギー源が身近に存在している鬼首の魅力について。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 地域の中で，これまでに経験したことをもとに考え，改めて身近な自然を再生可能なエネルギー源として，生活に生かせるような発想を引き出す工夫をする。

◎ 実践を振り返って

成果：学習を通して，他の地域と比較することで，鬼首の魅力に改めて気付かせ，自分たちが自然を守る担い手でもあると感じ取らせることができた。

課題：地域の人材を積極的に活用していけるようにしていきたい。

その他：将来の夢として，鬼首のよさを生かした生活をしていきたいという思いを抱かせる機会となった。

実践名：「かかりかつどうでたのしい がっきゅうにしよう」

領域：学級活動（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 6月～ 7月

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる）**・もとめる **（はたす）**

- ・ 係活動を通して、自分の役割を果たすとともに、学級のために進んで働く心情を育む。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 学級に必要なと思う係を考える。

- ・ 担任の手伝いをもとに、自分たちができる学級の仕事は何か考える。1年生の初めての係活動なので、当番的な内容であっても、友達と力を合わせてできる係、責任をもって毎日できる係を考える。また、各係2名ずつで構成し、友達と相談して助け合って仕事を進めることができるようにする。

2 友達と仲良く係の仕事をを行う。

- ・ 仕事の分担を自分たちで決めて係活動を行う。係の仕事を進める中で、分担や仕事のやり方を変えた方がよい場合は、自分たちで相談させ、必要に応じて改善する。

3 自分や友達の係活動について振り返る。

- ・ 自分や友達の係活動の様子、自分たちの仕事の頑張りについて振り返る。また、他の係の友達が頑張ったことについて手紙にまとめる。

4 係の仕事をしてくれた友達に感謝の気持ちを伝える。

- ・ 学級のために頑張ってくれた友達に対して感謝の手紙を読み、気持ちを伝える。



【友達に手紙を書く】



【友達に感謝の気持ちを伝える】

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 学級の中で自分の役割を果たそうとする意欲を育てるために、学級に必要な係を自分たちで選定したり、自分の仕事を忘れずに行っている児童に賞賛や感謝の声を掛けたりする。
- ・ 学級のために進んで働こうという態度を育てるために、他の係の児童から一生懸命に仕事に取り組んでくれたことに対する感謝の気持ちを手紙に書き、読んで伝える活動を取り入れた。

◎ 実践を振り返って

成果

自分たちで学級の係を決め、友達と相談し合って仕事に取り組むことで、学級の一員としての大事な役割を果たすことができたという満足感が得られた。担任や友達が感謝や賞賛の声掛けをすることで、自分は学級のために役立っているという自覚を促す一助になった。

課題

係活動を始める前に、学級のためにどのように仕事に取り組むのかというめあてを決めさせ、折に触れて振り返らせることで、より自分役割を果たそうとする態度や心情を育てていきたい。

実践名：「自分の仕事ーぼくのしごとー」

領域：道徳(1・2年)

◎ 実施期日(期間) 平成25年12月11日

◎ 志教育にかかわるねらい(かかわる・もとめる **はたす**)

・働くことのよさを感じ、みんなのために働こうとする心情を育てる。(はたす)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 家で家族がしている仕事について話し合う。
 - ① 家で家族がしている仕事、自分がしている手伝いなどを思い出して、カードに書く。
 - ② カードを集め、どんな仕事があったのか、紹介する。
- 2 「ぼくのしごと」を読んで話し合う。
 - ① 「おふろそうじ、いっしょに、やってみようか」と言われたとき、ひろきは どう思ったでしょう。
 - ・ ようし、やってやるぞ。・ぼくにもしごとができたぞ。
 - ・ぼくにできるかな。・ちょっとめんどうだな。
 - ② ふろそうじのこつが分かってきて、ひろきはどんなことを考えたでしょう。
 - ・おかあさんのお手伝いがなくてもできるようになったぞ。
 - ・おそうじのプロになれたかな?・おとうさんほめてくれるかな。
 - ・もっとほかの仕事もしたいな。
 - ③ お父さんにほめられたひろきは、どんなことを思ったでしょう。
 - ・やった、ぼくもおそうじのプロだ。・うれしいな。がんばってよかったな。
 - ・ほかのお仕事もしたいな。
- 3 最初に集めたカードを黒板に掲示し、家での仕事や手伝いについて話し合う。
 - ② 子どもたちのやっている仕事や手伝いと、それ以外の家族の仕事とに分ける。
 - ・たくさん仕事があるね。・たくさん手伝いをしてる人もいるんだな。
 - ・ぼくもなにかやりたいな。
 - ③ みんなのためにやっている仕事に印を付ける。
 - ・ぼくは、自分のための仕事ばかりだ。
 - ・お母さんやおばあさんは家族のための仕事が多いな。
 - ・お父さんも家族のために仕事に行っているね。
- 4 家族はみんなのために働いていることを確認し、自分も家族の一員としてできることは はないか考えさせる。
 - ・おふろそうじはぼくもできそうだぞ。・わたしにもできそうな仕事があるよ。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫・

- ・ 家族のために仕事をして、やり遂げたときやそのことを褒めてもらったときの気持ちについて話し合い、みんなのために仕事をするという意識を高める。
- ・ 児童が自分のためにしている仕事が多いことに対して、家族はみんなのために仕事をたくさんしていることに気付かせ、家族の一員として、自分ができる仕事はないか考えさせる。
- ・ 友達の手伝いの様子を紹介することで、児童の仕事や手伝いへの意識を高めるとともに、自分で取り組める仕事について考えるヒントとさせる。
- ・ お手伝いの例としては、教師の経験や家での様子を話したり、事前に他学年の児童からお手伝いの様子を聞いて、参考にさせる。

◎ 実践を振り返って

成 果

- ・ 児童に家での生活を振り返らせ、家族の毎日の仕事について考えさせることができた。
- ・ 家での仕事について関心を高め、家族の一員として手伝いをしようとする意識を高めることができた。

課 題

- ・ 継続して手伝いや仕事に取り組むよう、家庭と連携を図り、学習カードの活用や家族からの感想や励ましの手紙を紹介することなどを通して意欲付けを図っていく。

実践名：「もっとまちの人となかよくなるう」

教科：生活科（2年）

- ◎ 実施期日（期間） 平成25年11月22日（11月～12月）
- ◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる）**・もとめる・**（はたす）**
 - ・ 地域の人たちと積極的にかかわりを深め、地域への愛着を深める。（かかわる）
 - ・ 地域の良さを見つけ、工夫して伝え合う。（はたす）
- ◎ 具体的な学習・活動の流れ
 - 1 春のまち探検を思い出し、かかわってみたい人や行きたい場所を話し合う。
 - ・ 春のまち探検で、どんな人たちに出会い、どんな店や施設があったかを話し合う。
 - 2 グループ毎に、行ってみたい場所を2カ所決め、調べてくことや探検の決まり、役割分担などについて話し合う。
 - ・ 探検カードを用意する。
 - ・ どんなことを調べてくるのか、どのように質問すればよいのかを話し合う。
 - ・ 探検場所への行き方を確かめ、グループの決まりや役割分担について話し合う。
 - 3 約束を守って楽しくまち探検をする。
 - ・ 地域のすけっと隊の人たちに交差点に立って見守っていただき、グループ毎に2カ所探検をする。
 - 4 調べてきたことや気づいたことをまとめ、伝え合う。
 - ・ かかわった店や施設、すけっと隊の人たちにお礼の手紙を書く。
 - ・ グループ毎に調べて分かったことや感想を写真や絵などを取り入れてまとめる。
 - ・ 伝えたい人（1年生や家族）を招き、発表する。
- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
 - ・ 事前に商店や施設に活動のねらいや質問事項などを知らせ、協力を依頼する。
 - ・ 見つけたまちのよさを認め合い、共有化を図るための発表の場の設定や手法を工夫する。



スーパーマーケットの方に質問中



酒ミュージアムの方の説明を聞く



有名なお菓子があることを知りびっくり

◎ 実践を振り返って

成果： 商店、公民館、ふるさと歴史館等7カ所へ出かけ、あいさつをしたり質問をしたり進んでかかわることができた。また、まちでかかわった人や公共物などのよさを「まちのすてき」として、みんなに伝えることができた。

課題： 1グループ2カ所を選んで訪問したが、訪問先が同じ時間帯で重なることがあったので、訪問先を増やすことを検討したい。

その他： 今回の活動は、訪問先の方々に事前に連絡を取り打合せをしたり、地域のすけっと隊に安全面で協力を得るなど、地域と連携を図りながら実践することができた。今後もより効果的な連携のあり方を探っていきたい。

実践名：「発見！富永の宝」

領域：総合的な学習の時間（3年）

- ◎ 実施期日（期間） 平成25年4月～12月
- ◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 地域の人々や自然，史跡とかかわることでふるさとのよさを感じ，ふるさと富永に誇りをもち，よりよく向上していこうとまとめる気持ちを育む。（かかわる，もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 富永について知っていることを出し合う。
 - ・ 神社，寺，石碑，伝統行事等，知っていることや経験を出し合い，興味を高めるとともに，今年度の活動の見通しをもつ。
- 2 各区長さんから，各地区の様子を聞く。
 - ・ 区長さんの話を聞き，一人一人課題を設定する。
- 3 区長さんや公民館の人と一緒に地区探検をする。
 - ・ 実際に全地区を歩きながら，区長さんや地域の方々，市場や商店の人等の話を聞き，メモしながら地区探検をする（11地区，8回）。
- 4 発見したことや気付いたことを地図等にまとめる。
 - ・ 発見したことや気付いたことを写真やイラストを入れながら地図上にまとめるとともに，地区探検発表会に向けて，発表の準備をする。
- 5 区長さんや公民館の人を招いて，地区探検発表会を開く。
 - ・ お世話になった区長さんや公民館の方等をお招きして，地区毎に発見したことを中心に発表会を開く。お礼の気持ちも全員で表す。
- 6 まとめの感想を書くとともに，お世話になった方々にお礼の手紙を書く。
 - ・ 地区探検の感想をもつとともに，お世話になった方々にお礼の手紙を書き，感謝の気持ちを表す。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

徒歩での探検には，バスでの移動だけでは得られない景色や雰囲気，地域の大きさ等を子どもたちは感じたように思う。また，地区探検にあたっては，公民館との連携により，区長さん方との日程調整や話していただく内容の確認等は，スムーズに進めることができた。地域の方々と数多くふれあい，地域のよさをたくさん発見することで，ふるさと富永をさらによくしていこうとする意識を高めことができると考えられる。

◎ 実践を振り返って

成果 実際に地区を徒歩で探検することにより，各地区の人々とたくさん「かかわる」ことができた。地区の方々にゲストティーチャーとして説明していただくことで，感謝の気持ちや地域の人々を知るきっかけになった。子どもたちは，地域の人々の優しさを肌で感じ，ふるさとのよさを再発見することができた。それが今後，富永への誇りにつながり，よりよいふるさと創りを「もとめる」気持ちが育まれていくように思う。

課題 徒歩で地区探検すると1回に3時間程度はかかるので，事前に实地踏査を行い，安全で効率的な探検計画が必要である。

その他 地域の方々の親切に感謝したり，地域の歴史や文化のよさを知ったり誇りをもったりすることができる活動なので，将来，地域に貢献したいという気持ちを自然にもつことができるように，道徳や社会科との連携も考えたい。

領域にかかわる実践事例

大崎市立鬼首小学校

実践名：「鬼首うまいもの探し」

領域：総合的な学習の時間（3・4年）

◎実施期日（期間）平成25年6月11日，7月16日，9月6日，11月26日，12月6日

◎志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 地域の人たちとかかわり，体験を通して郷土の特産品への関心を高める。（かかわる）
- ・ 地域の特産品について体験したことを，工夫して他者に伝える。（はたす）

◎具体的な学習・活動の流れ



- 1 そばの種まきをする。
 - ・ 鬼首そば組合の方のお話を聞き，そばの特性が鬼首の地域に合っていることを知る。
 - ・ 年間の流れを知り，そばの種をまき，施肥する。
- 2 そばの花の観察をする。
 - ・ そばの花を観察し，お花とめ花があることを知る。
 - ・ お花のおしべの花粉がめ花のめしべに受粉してそばの実になることを知る。
 - ・ 受粉のためにはミツバチの役割が重要なことを知る。
- 3 そばの実を収穫する。
 - ・ 安全面に配慮しながら，鎌を使ってそばの実を収穫する。
 - ・ そば組合の方の畑でブルーベリーの摘み取りを体験する。
- 4 そば打ちをする。
 - ・ 岩出山から手打ちそば屋さんを講師としてお招きし，そば打ちをし，そのそばを昼食として食べる。
 - ・ 学年PTA行事と兼ね，保護者にも参加してもらう。
- 5 発見したことを発表する。〈学習参観〉
 - ・ ICTを活用し，各自が発見したことを写真や言葉にまとめ，分かりやすく伝える工夫をする。
 - ・ 保護者や学習でお世話になった地域の方々を招き，学習の成果を発表する。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 地域の特産品であるそばの栽培から収穫，さらにそばを手打ちしてゆでて食べるまでの一連の活動を体験することにより，地域を愛する心情を育む。
- ・ そば組合などのたくさんの協力者と関わりながら，活動させるようにする。

◎ 実践を振り返って

成果： そばに関する一連の体験を通して，鬼首の魅力を再認識し，郷土を愛する心情をより深めることができた。地域のたくさんの人の思いに触れることができた。

課題： 実の脱穀の活動に関わるができなかったため，できる範囲で関わられるようにしたい。

その他： 地域の特産品だが，普段の生活の中で関わることのないそばの一連の活動を経験できて，子どもたちには何よりの財産になった。

実践名：「みんなで生きる社会」

領域：総合的な学習の時間（4年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年5月～12月

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・もとめる・はたす）

- ・ 高齢者，障害をもつ人，福祉に携わる人の生き方について考えることを通して，自己のあり方・生き方について考える。（かかわる・もとめる）
- ・ 地域の方々との交流活動・体験活動を共に行い，地域の中でよりよい関係を築くと共に進んで社会や人のために貢献しようとする。（かかわる・はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 地域の高齢者，障害をもつ人との交流活動やキャップハンディ体験活動を実施する。

- ・ 地域のお年寄りを学校行事に招待（招待状作成，お年寄りとの交流）
- ・ 白杖体験（目の不自由な方，社会福祉協議会の方との交流）
- ・ 高齢者疑似体験（装具の借り受け）
- ・ 地域のお年寄りとの七夕交流会
- ・ 盲導犬との交流（盲導犬ユーザー，盲導犬トレーナーとの交流）
- ・ 点字体験
- ・ 手話体験と発表（耳の不自由な方との交流，学芸会等での発表）



2 体験をもとに各自が課題を設定して調べ活動を行い，自己のあり方・生き方について考える。

- ・ 体験を通して気づいたり感じたりしたことをもとに，一人一人が課題を設定して調べ活動を行う。
- ・ 調べて分かったことなどをもとに，自己のあり方・生き方について考えたこと，進んで社会や人のために貢献しようとする思いなどをまとめる。



3 思いや考えを交流し合い深める。

- ・ 学習参観日に発表会を開き，各自の学習のまとめを交流し合い深める。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 地域の社会福祉協議会と連携と連携して交流活動や体験活動の計画を立てるなど，地域と協働の学習を設定する。
- ・ 活動ごとの記録カードや資料を累積し，活動を振り返りながら各自の課題を設定する。
- ・ 課題設定や調べ活動，学習のまとめなどそれぞれの段階で，児童一人一人が自分の思いや考えを意識するような働きかけを心がける。（ワークシートの活用等）

◎ 実践を振り返って

成果： 児童は活動に意欲的に取り組み，高齢者，障害をもつ方，福祉に携わる方々とも積極的にかかわることができた。特に，4回交流した高齢者には回を重ねるごとに思いを深め，次の活動へのアイディアを出し合って活動することができた。活動のポートフォリオをもとに各自が課題意識をもって「みんなで生きる社会」について課題追究し，発表することができた。また，個々の課題追究の課程で，自発的に地域の方々にインタビューをするなど進んで地域に関わりをもとうとする姿も見ることができた。

課題： 体験活動は児童の意欲喚起にも有効である。体験活動をより有効に学習活動に生かすために実施時期の検討や活動と活動のつながり，他教科との関連など，一層の精選と計画性が必要であると感じる。

その他： 地域のネットワークの重要性を再認識した。

実践名：「福祉体験学習」

領域：総合的な学習の時間（4年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年9月17日、10月29日

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 福祉施設を訪問し、課題を見つけ、福祉について調べていく。（はたす）
- ・ 福祉の仕事について関心をもち、体験することで、その職業の大切さについて気付く。
（かかわる）（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 キャップハンディ体験をしよう

- ・ 福祉についての共通体験としてキャップハンディ体験を実施する。

2 福祉について考え、体験しよう（訪問体験①）

- ・ 施設訪問を行い、所員の方から福祉についてお話を聞いたり、高齢者の方との交流をしたりする。

3 福祉について考え、体験しよう（訪問体験②）

- ・ 訪問体験①から、自分の課題を設定し、2回目の訪問体験の計画を立てる。
- ・ 福祉施設で自分たちができることを考え、実行する。
- ・ 福祉施設で働く人の様子を調べ、自分たちにできることを考える。

【2回目の訪問体験】



4 学んだことを振り返り、これからの生活に生かす

- ・ 体験から学んだことを振り返ることで学びにつなげていく。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 様々な人（高齢者の方、施設の職員の方等）とのかかわりを通して、自己理解や他者理解を深めさせた。
- ・ 訪問体験学習を2回繰り返すことにより、課題を深めさせたり、将来の夢や仕事についても考えさせるようにした。

◎ 実践を振り返って

成果 今回の学習活動において、子どもたちは高齢者の方の障害についてよく理解できたとともに、どのように接すればよいか課題意識をもって知ることができた。このことよって、人とかかわり方を学ぶとともに、福祉施設で働く人の職業にも関心をもち、是非、その職業につきたいという感想をもつ子どももいた。

課題 この体験学習については次年度も是非、継続実施したい。そのためには、指導計画を含め、学習の成果物の引き継ぎや累積をしっかりと行っていく。

その他 本校は福祉教育の指定を受けており、子どもたちの豊かな心を育む上でも今回の第4学年の学習のような思いやりの心を育む教育活動を全校的に広げていきたい。

実践名：「三小夢色市場」

領域：総合的な学習の時間（4年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 4月17日～12月12日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 八百屋市見学や三小夢色市場の取組を通して、地域の方々と触れ合う。（かかわる）
- ・ 八百屋市での交流を通して、自分も取り組んでみたいという思いをもち、実現させるために調べたり作ったりする。（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ（総合的な学習の時間 54時間扱い）

- 1 「八百屋市」を見学する目的や意義を知る。
 - ・ 八百屋市はどのような目的で、どのように行うのかを知る。
- 2 「八百屋市」を見学する。
 - ・ 八百屋市で、店の人との交流や買い物を楽しむ。
- 3 「八百屋市」見学のまとめをする。
 - ・ 見学を通して学んだことや感じた良さをまとめる。
- 4 三小夢色市場を開く計画を立てる。
 - ・ 開催時期や出店計画を立て、必要な準備について話し合う。
- 5 野菜について調べる。
 - ・ 大崎市の特産物や収穫時期、栽培方法などを調べる。
- 6 野菜を育てる。
 - ・ 商品として売る野菜の世話をする。
（大根、ほうれん草、小松菜、ラディッシュ、春菊、さつまいもなど）
- 7 商品を作る。
 - ・ グループごとに商品作りをする。
（ジャム、シュシュ、しおり、キャンドル、コースター、写真立て、カレンダーなど）
- 8 三小夢色市場を開く。
 - ・ 市場を通して、お客さんとの交流や商品の販売を楽しむ。
- 9 三小夢色市場を振り返る。
 - ・ 三小夢色市場の活動を通して学んだことや楽しかったこと、苦労したことなどをワークシートにまとめる。
 - ・ 収益金の使い方を話し合う。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 八百屋市見学で地域の方々と十分に触れ合わせ、三小夢色市場への意欲を高めさせる。
- ・ 売りたい商品を決めるときには、なぜそれを売りたいのかや完成の見通しをもたせ、十分に吟味させるようにする。

◎ 実践を振り返って

成果 八百屋市見学を通して、地域の方々の優しさや温かさ、笑顔に触れ、自分たちも同じ気持ちでお客さんに接したいという思いをもつことができた。また、実際に市場を開催したことで、商品作りの楽しさや苦労、商品を売るときのやりがいや難しさも経験することができた。

課題 三小夢色市場では、児童の保護者や地域の方々、教職員が商品を購入することになる。そのため、製作の様子を見守りながら販売するに耐え得る商品を準備できるよう、適宜アドバイスをしていくことが大切であると感じた。また、野菜の栽培が2学期に入ってからになるため、育てられる野菜に限られたり天候によってうまく育たなかったりと苦労点が多かった。

その他 収益金は、児童の意見も取り入れながら、学校生活に必要なものや募金に使った。

領域にかかわる実践事例

浦谷町立月将館小学校

実践名：「わたしたちの二分の一成人式」

領域：総合的な学習の時間（4年）

◎ **実施期日（期間）** 平成25年 1月29日（二分の一成人式当日）

◎ **志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 自分の将来への夢や希望，職業や生き方について考え，前向きに生きていこうとする意欲を育てる。（もとめる）
- ・ 二分の一成人式で自分の将来の夢や希望を発表することで，今後の生活への意欲を高める。（もとめる）

◎ **具体的な学習・活動の流れ**

1 成長を振り返ろう ～自分新聞をつくろう～（事前指導）

- オリエンテーション。
 - ・ 学習活動の見通しをもつ。
- 学習計画を立てる。
 - ・ 記事の内容や新聞の形式を検討する。
 - ・ 記事集めの方法を考える。
- 記事を集める。
 - ・ 集めた記事を整理する。
 - ・ 新聞を作成する。

2 これからのわたし

- 自分の成長の跡を確かめる。
 - ・ 自分の成長を伝え合う。
- 自分の将来の生き方や職業について考える。
 - ・ 自分の夢をまとめる。

3 二分の一成人式をしよう

- 式の内容を話し合う。
- 必要な係や準備を考える。
 - ・ リハーサルをする。
- 二分の一成人式で，自分の夢を発表する。
- 学習活動の反省をする。

◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・ 前向きに生きていこうとする意欲を育てるため，自分新聞の作成を通して自分のよさや特徴をとらえ自己理解を深めさせ，将来の夢や生き方について考えさせる。
- ・ 自分の考えをはっきりと発表させるとともに，友達の発表を聞き，互いに認め合う気持ちをもつことができるようにする。

◎ **実践を振り返って**

成果

自分新聞づくりにおいて，自分の成長の跡を確かめることを通し，自分のよさ等，自己理解を深めることができ，さらによさを伸ばそうとする意欲をもたせることができた。

自分のよさを発表し，聞き合う活動を通して互いに友達のよさやがんばっていることを認めようとする気持ちをもたせることができた。

将来の夢や職業を考えさせ，保護者も招いて大勢の前で発表させたり，二分の一成人証書を渡したりする場を設定したことにより，自分の目標に向かって前向きに生きていこうとする決意をもたせることができた。

課題

二分の一成人式での決意をその後の生活に生かしていくことができるよう手立てを講じていく必要がある。

その他

保護者に感謝の手紙を書く活動を通して，当たり前と思っている家族とのかかわりについて気付かせるとともに，自分を支え，見守ってくれていることへの感謝の気持ちをもたせることができた。

領域にかかわる実践事例

大崎市立西大崎小学校

実践名：「竹細工を作り，互市に出店しよう」

領域：総合的な学習の時間（４・５年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年4月～11月 互市11月15日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 岩出山の伝統工芸である「竹細工」について調べ，職人による竹細工作りの指導を通して，地域の人たちとかかわり，地域を愛する心情を育てる。（かかわる）
- ・ 自分たちが作った「竹細工」を販売するという体験を通して，自己の役割や責任を果たし，働く喜びを味わわせる。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 竹細工について調べる
- 2 竹細工作りを体験する。
- 3 互市出店計画を立てる。
- 4 互市で竹細工を販売する。
- 5 収益金の使い方について考える。
- 6 学習のまとめをする。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 竹細工について実際に竹芸館に見学に行って，職人さんにインタビューしたり，春の互市を見学して秋の出店のイメージを持たせたりすることで，学習への意欲付けを図る。
- ・ 竹細工作りでは，職人さんに作り方を指導していただきながら，一輪挿しと竹とんぼを作る。
- ・ 互市販売では，販売のための看板や値札，チラシ作りなどに取り組みさせる。
- ・ 販売で得た収益金の使い方について，学級やみんなのためにという観点で考えさせる。

◎ 実践を振り返って

成果

- 職人さんと直接かかわることで，伝統工芸のよさや苦勞を理解することができた。また，自分たちで商品を販売するという体験を通して，地域の方々とのふれあいもあり，自分の役割について責任を持って活動に取り組むことができた。

課題

- 職人さんや商工会との方々の協力が不可欠であるので，しっかりと連携を取っていくことが必要である。

実践名：「I like apples.」

領域：外国語活動（5年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年9月11日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・**もとめる**・はたす

○ 外国語を通して、自分のことを伝え合い、かかわり合うことの大切さを感じ取る。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

【本時のねらい】

○ 好きなものや嫌いなものについて、友達に伝える活動を通して、自分のことを友達に知ってもらい楽しさや、友達とかかわることの大切さを体験する。

【学習の流れ】

1 好きなものや嫌いなものを表す表現や果物などの言い方について確認する。（もとめる）

- ALT, 外国語補助員, 電子黒板の音声等から英語の発音の仕方を確認する。
- 単語カードや絵カードから好きなものや嫌いなものを確認する。

2 好きなものや嫌いなものを尋ねる表現について知る。（もとめる）

- 友達に好きなものや嫌いなものの聞き方を知る。
Do you like apples? Do you like spiders?
Yes, I do. I like apples. Umm..., no, I don't. I don't like spiders.

3 友達と好きなものや嫌いなものについて尋ねたり答えたりする。（かかわる）

- 友達とのやり取りを通して、尋ねたり答えたりする言い方に慣れ親しむ。
- 友達の好きなものや嫌いなものを知ることによって、友達の新たな一面を発見し新たな付き合い方を考えるきっかけとする。
- 積極的に友達に好きなものや嫌いなものを聞く活動を楽しむことで、人とかかわる力を高める。

4 学習の振り返りをする。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- 単語や表現にしっかりと慣れ親しませ、自信をつけることで友達にも伝えたいという意欲を高める。
- 児童の拡大写真と好きなものや嫌いなものの絵カードを用意し、黒板に貼りながらだれが何を好きで何を嫌いなのかを視覚的におさえられるようにする。
- 互いのことをより深く知るきっかけとなるように、1つだけではなく、3つ程度の単語を言えるようにしておく。

◎ 実践を振り返って

成果 友達の好きなものや嫌いなものを聞くことで、今まで知らなかった友達の一面を発見し、更に関係を深めることができたという実感をもたせることができた。

課題 表現活動を苦手とする児童にとって活動が消極的になってしまうことがあった。様々な単語カードを掲示することで、それを手がかりとして積極的に表現活動に取り組めるように配慮する必要がある。

実践名：「栽培活動・田植え」

領域：総合的な学習の時間（5年）

- ◎ 実施期日（期間） 平成25年 5月14日
 ◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 地域の方々に教えられながら一緒に活動する。（かかわる）
- ・ 日本の伝統的な米作りについて知り、よりおいしい米の作り方について興味・関心をもつ。（もとめる）
- ・ 教えてくださった地域の方々と、自然の恵みに感謝する。（はたす）



◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 田植えの仕方について話を聞く。

- ・ 自分が植える列と植える場所（線が交差しているところ）を確認し、稲の苗を受取りながら、3本ぐらいずつ植えていくこと。

2 実際に田んぼの中に入り、田植え作業をする。

- ・ 地域の方のやり方を見ながら、一緒に田植えをする。
- ・ 困っている友達がいたら助け合いながら作業を進める。

3 田植えの後のことについて、話を聞く。

- ・ この後、除草作業や農薬をまく作業などがあることを聞き、自分たちでできることを考える。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 米を作ることの良さや大切さを、日本の伝統と照らし合わせて考えることができるように導き、自分たちの地域でも農業を持続発展できるように考えさせたい。

◎ 実践を振り返って

成果 5年生になって初めて田植えを体験したが、泥の中にはだして、大騒ぎしながら入っていた。それでも、苗を受け取り、教えられたとおりに一生懸命苗を植え始めた。だんだん慣れてくると、手際よくやるようになった子もいて、昨年度よりも広い田んぼだったが、みんなで力を合わせてきれいに苗を植えることができた。昔は全部手作業だったことを社会科の授業で知っている子どもたちは、たった1枚の田んぼに田植えをするだけでも、こんなに大変なんだなあとしみじみ感じていた。

課題 田植えの前の準備などは、ほとんど地域の方にやってもらった。自分たちできなくても、その準備の様子を何らかの方法で見せたかった。また、もう少し自然の良さ、手作業の良さを感じ取らせることができなかつたか、来年度に向けて考えていきたい。

実践名：「あぜ道探検隊～稲刈りをしよう」

領域：総合的な学習の時間（5年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年10月4日 （4月～1月）

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・農協青年部の人たちと積極的にかかわり、よりよく充実した活動を行う。（かかわる）
- ・事前に調べたことを実際の体験活動の中で生かそうとする。（もとめる）
- ・課題を持って活動に取り組み、仕事の意義や大切さに気付く。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 稲刈りについて知っていることを話し合い、稲刈りについての関心を高める。
- 2 機械による稲刈りと手作業との違いや、棒掛けについて調べ、稲刈りについての知識を得る。
- 3 調べたことを基にして、一人一人の課題を設定する。



- 4 稲刈りと棒掛け作業を行う。
 - ・農協青年部の人から稲刈りの仕方や棒掛け（天日干し）の意義などの話を聞き、手作業の大変さと意義を知る。
 - ・話を聞いたり体験したことで感じたり分かったりしたことを、事前に調べたことと比較しながら取り組む。
 - ・設定した課題を解決するよう、主体的に取り組む。
- 5 活動を振り返り、まとめをする。
 - ・活動を振り返り、感じたことや分かったこと、課題を解決できたかを検証する。
 - ・まとめたことを発表する。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・地元の主たる産業である「米作り」の仕事をしている方々との交流と協働での作業を通して、働くことの意義や役割などの職業観を養う。
- ・主体的に活動させるために、事前学習の時間を設定し、作業やそれにかかわる事柄を調べさせるなかで、一人一人に活動課題を設定させた。

◎ 実践を振り返って

成果：事前学習を行い、活動について調べさせたり課題を設定させたりしたことで、知識で得たことと体験で得たことを比較しながら主体的に活動し、作業についての理解を深めることができた。当日は青年部の方だけでなく、田んぼ近くに居合わせた地域の方々の飛び入り支援をいただき、児童は稲わらでの束ね方や、棒掛けの作業まで共に体験することができた。そして、昔の人々の知恵や工夫を知ると共に、手作業（労働）の大変さと収穫の喜びを実感することができた。

課題：農協青年部と（志教育の視点を含めた）活動内容についての打合せを密に行えば、児童の動きや活動への取り組ませ方がより充実したものになったと考える。

その他：種まきから稲刈り・脱穀までの「米作り」の作業内容と写真を、教室廊下に累積掲示して活用したことは、1年間を通じた体験活動の振り返りにおいて有効であった。また、社会科の「米作り」の単元と関連させ、地域の抱える課題と展望を考えることは、地域のふるさと学習としても意義深いものであった。

領域にかかわる実践事例

加美町立広原小学校

実践名：「米はすごい食べ物だ」

領域：総合的な学習の時間（5年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年5月22日～平成26年2月

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 米作り農家やJAの職員と一緒に育てた餅米を収穫することにより、地域の農家の仕事への誇りに気付く。（かかわる）
- ・ 保護者や祖父母と一緒に餅料理を作り、全校児童やお世話になった方々と会食をするなかで、よりよい関係を築こうとする気持ちを育てる。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 水田に行き、地域の農家の方から田植えについて学び、体験する。（5月22日）
 - ・ 田植えまでの準備とその後のお世話について、JAの職員の方や農家の方の話聞く。
- 2 水田の稲の生長の様子や、田んぼの環境を調べる。（①7月17日、②9月12日）
 - ・ 稲の開花や生長をまとめる。（①②）
 - ・ JAの職員の方と一緒に水田に住む生物や植物を調べ、環境についてまとめる。（①）
 - ・ 各グループごとに生育調査や雑草調査、生き物調査を行う。（②）
- 3 地域の農家の方やJAの職員の方と一緒に稲刈りをする。（10月4日）
 - ・ 稲刈りの準備や方法、その後のお世話について農家の方の話聞く。
- 4 JAの職員の方ともみすりを体験する。（11月2日）
 - ・ 昔の道具と現在使っているもみすり機を比較しながらもみすりを体験する。
- 5 保護者や祖父母等、地域の大人と協力して餅つきをして餅料理を作る。（11月13日）
 - ・ 保護者や祖父母に教えてもらいながら、餅をふかして臼と杵で餅つきをしたりあんこ餅を作ったりする。
 - ・ 収穫感謝の会を開き、お世話になった方々を招待し、みんなで餅を会食する。
 - ・ 学年PTA行事として、保護者や祖母と一緒に雑煮を作って会食する。
- 6 地域の方にお正月に飾るしめ縄作りを教わる。（12月19日）
 - ・ JAの職員の方や地域の方に教えていただきながら、わらを使ってしめ縄作りとしめ飾り作りを体験する。
- 7 米作り体験をまとめ、お世話になった方に発表する。（2月上旬予定）
 - ・ 米作りを通して自分が学んだことをまとめる。（本、新聞、かるた、すごろく）
 - ・ お世話になった方を招待して、発表する。1年間の指導に対して感謝の気持ちを表す。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 地域の方に指導していただきながら米作りを中心とした体験を通し、働くことの喜びや自分のよさに気付かせ、生活に生かそうとする気持ちを育てる場を設定する。

◎ 実践を振り返って

成果 米作りを中心とした様々な体験を地域の方と一緒にすることにより、身近な農家が誇りをもって仕事をする姿に触れることができた。働くことの喜びや自分のよさに気付く、係活動や委員会活動で自分から進んで仕事をする姿が見られるようになった。

課題 収穫感謝の会（児童会行事）と、5年生がお世話になった方との餅つき、会食をタイアップして実施しているが、ねらいが曖昧になっているので、見直しを図りたい。

その他 志教育の推進には、地域の自然や人や施設とかかわりが有益。総合的な学習の時間だけでなく、社会科や生活科の学習でも志教育の視点で取り組んでいきたい。

実践名：「めざせ！イネ博士」

領域：総合的な学習の時間（5年）

◎ 実施期間 平成25年 5月～11月

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- 1 美里町の様子を調べる活動を通して、地域の人々と触れ合い、自分たちを支えている人々への感謝の気持ちや町に対する誇りと愛情をもつ。（かかわる・もとめる）
- 2 美里町の特徴ある様子をまとめて発表する。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 めざせ！イネ博士（出会い）

- (1) 1年間の学習の計画を立て、米作りについて関心をもつ。
- (2) 地域の方と出会い、協力を得ながら学校田で田植えを行う。

2 大きく育てよう（触れ合い）

- (1) 米作りについて「仕事内容」「勤労の喜び・苦勞・工夫」等の視点で地域の方から話を聞き、まとめる。
- (2) 地域の方と触れ合いながら稲刈りと脱穀作業を行う。

3 収穫に感謝しよう（学び合い）

- (1) お世話になった方々を招いて収穫祭を行う。
- (2) 調べたことやまとめたことを発表したり紹介したりする。

4 みんな！イネ博士（発信）

- (1) 米作りで体験したことや社会科で学んだことを生かして、1年間の米作りについてレポートにまとめる。
- (2) 発表会を開く。学習を振り返り、成果や課題に気付く。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- 1 「志教育」の3つの視点を、より児童一人一人に実感をもってとらえさせるために、「出会い」「触れ合い」「学び合い」「発信」という4つの段階に設定した。



- 2 児童に実際に学習田での田植えを経験させ、身近だと思っていた米作りに対して改めて「驚き」や「感動」、「疑問」、「興味・関心」をもたせられるように、意外性のある事象提示を工夫する。
- 3 自分なりの見方や考えをもたせるために、田植え・バケツ稲の栽培・稲刈り等の体験的な活動を計画的に実施する。
- 4 お世話になった方を招いて収穫祭を開催して感謝の気持ちを伝えたり、体験したことの中から課題を見つけてレポートにまとめたり発表会をしたりして、自分の見方や考えを深める発信の工夫をする。

◎ 実践を振り返って

1 成果

- (1) 児童は、実際に裸足で泥の中に入り、自らの手で苗を植える体験をしたことにより、「泥の感触が気持ちよかった。」「昔の田植えの様子が分かった。」「米作りをしてみたい」等の感想をもち、身近な米作りについて、「やってみたい」「調べてみたい」という意欲を高めることができた。
- (2) 田植えから稲刈りまで継続的に米作りとかかわらせる中で、自分なりの疑問をもたせ、課題作りにつなげさせることができた。また、地域の老壮会・婦人会の方々に手伝っていただいたり収穫祭にお招きして感謝の気持ちを伝えたりしたことにより、地域の方々とのかかわりについて考えさせることができた。
- (3) 米作りの体験を積み重ねる中で、課題追究の意欲をもったり自分なりに課題について考えたりすることができた。また、収穫祭を自分たちで企画・運営する過程において、児童は改めて地域の方々にお世話になっていることに気付き、感謝の気持ちをもつことができた。



2 課題

稲を栽培する活動の中心は、田植えや稲刈り、バケツ稲の管理であった。今後は栽培全体を通して深くかかわりをもたせ、日常的に感じた疑問から課題を考えさせる方法を探っていく。

領域にかかわる実践事例

美里町立小牛田小学校

実践名：「花山宿泊学習」

領域：学校行事，総合的な学習の時間，学級活動（5年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年7月～9月

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ お互いによさを認め合いながら，よりよい人間関係を築こうとする気持ちを育む。（かかわる）
- ・ 自分の仕事を責任をもって行い，集団の一員としての役割を果たそうとする気持ちを育む。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 花山宿泊学習のテーマを話し合っで決める。（かかわる）
- 2 グループや係を決める。（かかわる）
- 3 活動の計画を立て，準備を進める。
- 4 活動・グループのめあてを「ことばの貯金箱」を活用して決める。（かかわる）
- 5 花山宿泊学習を実施する。（はたす）
- 6 めあての振り返りをする。
- 7 花山宿泊学習新聞にまとめ，新聞集を作る。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ グループ学習や活動でどんな力を付けていきたいのかを明確にしていくために，グループや係ごとにめあてを立てるときに十分時間を取り，一人一人の思いや願いをしっかりと引き出させて意識付けを図る。
- ・ 活動の後に，振り返りをしっかりとさせるために反省会を設け，宿泊学習終了後には新聞にまとめ，自分の役割を果たせたかを見つめ直す時間を設定する。

◎ 実践を振り返って

成果 めあてをしっかりと果たせたことで一人一人が自覚をもって役割に取り組むことができた。

同じクラスにいても深くかかわり合ったことがなかった友だちのよさに気づき，認め合うことができるようになった。

課題 活動後の思いを継続していけるように，その後も様々な形でかかわり合いをもてる支援をしていく必要性を感じた。

実践名：「鬼首再発見（鬼首神楽・心鼓太鼓）」

領域：総合的な学習の時間（5・6年）

◎実施期日（期間）平成25年7月18日，10月10日，12月3日，12月6日）

◎志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 地域の人たちとかかわり，体験を通して郷土への関心を高める。（かかわる）
- ・ 地域の伝統芸能の良さを発見し，工夫して伝え合う。（はたす）

◎具体的な学習・活動の流れ



1 地域に伝わる伝統について話し合い，自分たちの町への関心を高める。

- ・ 町の伝統に関することで知りたいことを話し合う。

2 調べてくることを話し合う。

- ・ 各自が関心をもっていることを発表し合い，実際にその場所に行ってみたり，聞いたり，体験したりできることを考える。



3 鬼首山学校へ行ってみよう。

- ・ 町に伝わる神楽の魅力について知る。
- ・ 神楽体験を通し，神楽保存会の方々の取組について知る。
- ・ 新しい楽しみや経験を広げる。

4 心鼓太鼓をたたいてみよう。

- ・ 心鼓太鼓を鬼首小学校出身の先輩から学び，先輩から後輩へと技術を伝える地域の良さについて発見する。



5 発見したことを発表する。

〈学習参観〉

- ・ ICTを活用し，各自が発見したことを写真や言葉にまとめ，分かりやすく伝える工夫をする。
- ・ 保護者や学習でお世話になった地域の方々を招き，学習の成果を発表する。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 地域に伝わるもので，これまでに経験したことのないものに触れ，地域の人たちから多くのことを学ぶ喜びを知り，発表に生かせるように手法を工夫する。

◎ 実践を振り返って

成果： 体験を通して，地域の魅力について改めて発見し，伝統芸能の伝承に携わることのすばらしさを感じ取ることができた。

課題： 今回の成果を引き継ぎ，地域の人材を積極的に活用していけるようにしていきたい。

その他： 将来の夢として，鬼首のよさを広く発信していきたいという思いを抱く子どもたちにとって，伝統について具体的に学ぶ機会となった。

実践名：「鬼首再発見（水の恵み）」

領域：総合的な学習の時間（５・６年）

◎ **実施期日（期間）** 平成25年4月26日～

◎ **志教育にかかわるねらい**（かかわる・もとめる はたす）

- ・ 地域の人たちとかかわり、体験を通して郷土への関心を高める。（かかわる）
- ・ 鬼首の良さに気づき、鬼首の未来について考え、自ら活動しようとする。（はたす）

◎ **具体的な学習・活動の流れ**

- 1 鬼首の良いところを発見しよう
 - ・ 自分たちが生まれ育った、鬼首の良いところを話し合う。
- 2 調べることを決めよう
 - ・ 各自が関心を持っていることを発表し合い、見学や体験ができる所を考え、話し合う。
- 3 イワナの養殖場を見学しよう
 - ・ イワナの養殖場を見学し、きれいな水があるからイワナを養殖することができることを知る。
- 4 植林体験をしよう
 - ・ 植林を通して、森林がきれいな水をつくり出していることを知る。
- 5 田野沢の源流へ行ってみよう
 - ・ 沢登りをして、水が湧き出している所を発見し、水の冷たさや自然を感じ取る。
- 6 発見したことを伝えよう＜学習参観＞
 - ・ ICTを活用し、各自が発見したことを写真や言葉にまとめ、分かりやすく伝える工夫をする。
 - ・ 保護者や学習でお世話になった地域の方々を招き、学習の成果を発表する。



◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・ 生物にとって水はとても大切なものである。鬼首から江合川に注ぎ込んだ水が、川魚の生息に重要なことに気付かせ、鬼首の水を利用した産業である「イワナの養殖」に対する関心を高める。養殖場を見学し、豊かな自然の恵みや清らかな川水の恩恵を生活に生かすことの大切さを知り、植林活動を通して、豊かな自然を自分たちの手で守るという意識を持たせるようにする。

◎ **実践を振り返って**

成果 学習全体を通して、地域の方々の協力のおかげで、鬼首ならではの自然を生かした産業に触れることができ、その良さに気付かせることができた。

課題 地域の方々にたくさんの協力を得ることができ、たくさんの体験活動を行うことができた。今後も地域の人材を活用できるように引き継いでいきたい。

領域にかかわる実践事例

大崎市立志田小学校

実践名：「地域の伝統（飯川獅子舞）」

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 10月4日～11月15日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 飯川獅子舞保存会の方の獅子舞に対する思いを知り、舞の仕方を覚える。（かかわる）
- ・ 飯川獅子舞の歴史について知り、この獅子舞の伝統が途絶えないようにするためには、どうすればよいのかを考える。（もとめる）
- ・ 地域の伝統を自分たちが受け継ぎ、どのようにして伝えていくのかを考える。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 飯川獅子舞について知る。

- ・ 熊野神社に行き、「飯川獅子舞」の歴史について説明を聞く。
- ・ 実際に獅子舞を見せてもらったり、獅子頭を持ってみたりして、そのすばらしさを感じとる。

2 獅子舞を踊る計画を立て、練習をする。（太鼓、前後の舞）

- ・ 自分たちで話し合っ、獅子舞を踊る計画を立てる。
- ・ 獅子舞保存会の方に教えていただきながら、舞の練習をする。
- ・ 獅子舞を披露する準備をする。



3 志田っ子祭で「飯川獅子舞」を披露する。

- ・ 「はじめのつどい」「おわりのつどい」で保護者の皆さんや全校児童の前で舞を披露する。

4 今後、どのように伝えていくか話し合う。（2月へ）

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 1学期に学習した「岩手・盛岡の伝統・文化」から「宮城の伝統・文化」「大崎市の伝統・文化」へと調べ学習を進めていく。
- ・ 自分たちの地域にも誇れる伝統があることを調べ、それを将来に伝えていけるかどうかは自分たちしだいであることを自覚し、どのようにして伝えていきたいかを自分たちで話し合えるような学習の流れにしていく。

◎ 実践を振り返って

成果 「飯川獅子舞」には、保存会の方々の伝統を伝えていきたいという思いが込められていることを知ることができた。また、実際に獅子舞を舞うことで、この伝統を引き継いでいきたいという気持ちをもつことができた。

課題 学芸会の後、志田っ子祭まであまり日数がなかった。また授業時間に練習できる程時数に余裕がなかったため、放課後30分の練習となることが多かった。練習時間の確保が難しかった。

領域にかかわる実践事例

大崎市立宮沢小学校

実践名：「世界に目を向けよう～日本の文化体験～」

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ 実施期日 平成25年12月9日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 日本の文化を調べたり，体験することを通して伝統的な文化に興味をもったり，その良さに気付くようにさせる。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- ・ 日本の伝統的な文化について，自分の興味を持ったものを調べてまとめる。
- ・ 日本の文化の体験学習を行い，文化に触れる。
- ・ 調べたり，体験したりしたことをまとめる。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 体験活動を通して，日本の文化を知り，一つ一つの文化の中に，相手に対する感謝やおもてなしの心が入っていることを感じ取らせる。
- ・ 講師の先生方との交流を通して，日本の文化を受け継ぎ，伝えていくことの大切さと文化のすばらしさを知ることができるようにさせる。
- ・ 図工の「墨絵」の学習とも関連させながら，合科的な活動につなげるようにしていく。

◎ 実践を振り返って

成果 実際に体験する活動を通して，日本の文化の奥の深さに気付くことができた。また，講師の先生の話や，やりとりの中で，どのような思いで文化を伝えているのかにも，触れることができた。

課題 図工の学習を含め，3つの体験学習を行ったが，調べた課題毎に体験活動ができれば，より深まりがみられると思う。

実践名：「一年生を迎える会」

領域：特活・児童会活動（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 4月

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 異年齢集団の活動を通して、好ましい人間関係をつくる。（かかわる）
- ・ より良い人間関係について考え、それを築けるよう行動する。（もとめる）
- ・ 自分の役割を自覚し、会がスムーズに進み、みんなが楽しめる会にするために責任を果たす。（はたす）



◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 「一年生を迎える会」の計画を立て、その準備をする。

- ・ 3月の代表委員会を受け、各委員会でする準備、各学年がする準備を確認し、連絡調整にあたり、また自分たちがすべきことをしっかりと行う。
- ・ 一年生に喜んでもらえるように、工夫をこらし、また協力して準備を進める。

2 「一年生を迎える会」を行い、全校児童に楽しく参加してもらえるように、進行していく。

- ・ 一年生の緊張をほぐすように考えながら進行していく。
- ・ 各学年の演技や各委員会の役割をしっかりと把握しながら進行していく。

3 反省会をし、来年度に生かせるように記録しておく。

- ・ 良かった点や、変えた方がよい点などを6年生全員で反省し、5年生へ引き継げるように記録しておく。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 最高学年になって初めての児童会行事である。自分たちで企画運営して成功させることにより自信が付き、これから6年生として自覚をもって行動できるようになるであろう。できるだけ、児童の考えを生かし、十分に時間を与えて準備できるようにしておく。またアドバイスは「こうしたら？」ではなく、児童が自分たちで決めることができるよう、いくつかの考えを与えて選ばせるようにしたい。

◎ 実践を振り返って

成果 学校の行事紹介を2年から6年まで全学年で手分けして行ったため、児童一人ひとりが「一年生のために自分もがんばった」と思うことができた。またゲームを縦割り班対抗で行ったので、縦割り班のメンバーの顔を覚えることができ、これから続く縦割り活動に意欲をもつことができた。

課題 会場を華やかにするために4・5年生が飾りを作ってくれたが、それを飾る時間が45分と少し足りなかった。

領域にかかわる実践事例

大崎市立高倉小学校

実践名：「みんなの運動会」

領域：学級活動（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 5月14日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる **はたす**）

- ・ 運動会での係や応援の活動を通して、全校児童のリーダーとしての役割を果たそうとする意欲を高める。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 運動会にはどんな係や役割が必要なのかを考える。
 - ・ 運動会に必要な係を考えさせ、係がいなければ運動会を運営していくことができないことに気付かせる。
- 2 昨年度の運動会での6年生の活動を想起させる。
 - ・ 昨年度の6年生の係活動や下級生への声かけなどを思い出させ、そのよさを話し合うことで自分たちの役割を果たそうとする意欲付けを図る。
- 3 どのように仕事に取り組むことが求められているのかをみんなで話し合う。
 - ・ 楽しい運動会にしようという意欲をもたせる。
- 4 応援合戦への取組方について話し合う。
 - ・ いろいろな係や役割の中でも、運動会を盛り上げる応援について取り上げ、昨年度以上の応援をするために、どういう取組が必要かを話し合う。
 - ・ 具体的にどういう応援をするのかを考えさせる。
- 5 話し合ったことをまとめ、今後の見通しをもつ。
 - ・ 全校のリーダーであるという自覚をもたせ、活動することを意識させる声かけを行う。



【話し合いをもとに演技練習をする】



【全体練習で下級生に教える】

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 6年生がリーダーとしての自覚をもって活動していかなければ、楽しい運動会を実現できないことを気付かせるために、昨年度の6年生の取組について振り返らせる。
- ・ 応援の具体的な手立てが出ない場合は、教師から提案するつもりで案を考えておく。

◎ 実践を振り返って

成果 昨年度の6年生の活動を振り返らせることで、リーダーとしての活動を自覚させることができた。また、応援について話し合わせることで、リーダーとしての活動を具体的に想起することができた。

課題 応援の具体的な内容については、昨年度と同じものしか提案されなかった。事前に運動会を盛り上げるためにはどのような応援の仕方があるのかについて考えさせておく必要があった。

領域にかかわる実践事例

美里町立中埜小学校

実践名：「先輩に聞こう」

領域：学級活動（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年10月31日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 中学生の先輩から、中学校での勉強や部活動のことなど中学校生活についての発表を聞き、それについての自分の感想を発表する活動を通して、中学校生活への見通しや今、努力をすることなどを自覚させる。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 質問の準備を行う。

(1) 6年生の児童にあらかじめ、中学生に質問することを伝え、自分の考えをまとめるように投げかけておく。

- 先輩の話を聞いて参考になったこと
- 中学生になったらやりたいこと
- そのために今、頑張ろうと思うこと

(2) 中学校の職場体験学習で来校する中学2年生に、職場体験の一環として6年の児童の前で次のような話をするを伝え、考えをまとめておくよう指示する。

- 中学生になって（学習、部活動、生活の変化、職場体験で感じたことなど）

2 先輩の話を聞く会を行う。（司会：教師）

(1) はじめのことば（司会）

(2) 先輩の話

(3) 質問コーナー（司会が進める。児童からの質問がない時は、事前に児童に書かせていた質問を司会がインタビューする形で中学生に話をさせる。）

(4) 6年生の感想発表

(5) おわりのことば（司会）

3 振り返りを行う。

(1) 先輩の話を聞いた感想を書く。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 身近な先輩の話を聞くことで、将来の中学校生活について自分のこととして実感できるようにするとともに、中学生生活に向けての見通しがもてるようにする。そのために、児童への事前・事後指導や中学生との打合せを入念に行っておく。



◎ 実践を振り返って

成果・ 身近な先輩の話を聞くことで、先輩の姿を通して、近い将来の自分の様子を想像しながらしっかり話を聞き、考える児童が多かった。中学校に向けて、自分の気持ちの準備をするきっかけ作りになった。

課題・ 中学校生活に対しての質問だけにならないように、事前に会を催す意義をしっかり指導しておく必要がある。また、不安な部分だけが大きくならないように、事後の振り返りも大切にしたい。

領域にかかわる実践事例

大崎市立古川第五小学校

実践名：「学校の一員」

領域：道徳（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年10月

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・**まとめる**・**はたす**

- ・ みんなで協力し合い、よりよい校風をつくっていかうとする心情を育てる。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 学校の良いところを発表する。
 - ・ 国語「学校のよさを宣伝して書こう」の学習を振り返り、ねらいとする価値への方向付けを図る。
- 2 「イチョウ祭り」（6年道徳：文溪堂）を読んで話し合う。
 - ・ 「大イチョウの木を見ながら」「落ち葉を集めている主事さんを見て」「みんなが応援に来てくれて」3つの場面で主人公である「わたし」はどう思ったかを考える。
 - ・ イチョウ祭りに込められた「学校がいつまでもきれいであってほしい」「低学年の人にもこの思いが受け継がれていってほしい」という願いを感じ取らせる。
- 3 学校のために努力した経験を話し合う。
 - ・ 学校をよくするために頑張ってきたことをワークシートにまとめる。
 - ・ 学校をよくするために続けていきたいことや新たに取り組みたいことをワークシートにまとめる。
 - ・ ワークシートにまとめたことを発表し合い、友達の頑張りや今後の意欲を認め合う。
- 4 教師の説話を聞く
 - ・ 今までの6年生の頑張りやエピソードを伝え、さらに今後も自分たちがよりよい校風をつくっていかうとする意欲をもたせる。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 事前に、6年生になってからこれまでの委員会活動やクラブ活動の様子を振り返らせる。
- ・ 導入で国語の学習を想起させ、自分たちの学校のよさを再確認させる。
- ・ 事後は、下学年児童との活動の場を設定したり、6年間学んだ校舎への感謝の清掃活動の場を設定したりする。

◎ 実践を振り返って

成果 これまでも積極的に委員会活動を行う児童が多かったが、教師の働き掛けによって頑張るだけでなく、自ら進んで学校のために頑張る児童が多くなった。

学芸会の裏方の仕事や会場設営・撤去など友達と声を掛け合いながらみんなで頑張ろうとする姿が見られた。

下学年児童のお世話をしたり、業間や休み時間など一緒に遊んであげる児童が増えてきた。

課題 下学年児童と交流したくてもどう関わればよいのか分からないという児童が多く見られた。今後、異学年との交流ができる場を増やしていきたい。

実践名：「みやぎの先人 鎌田三之助」

領域：道徳（6年）

◎ 実施期日(期間) 平成26年1月17日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・**もとめる**・**はたす**）

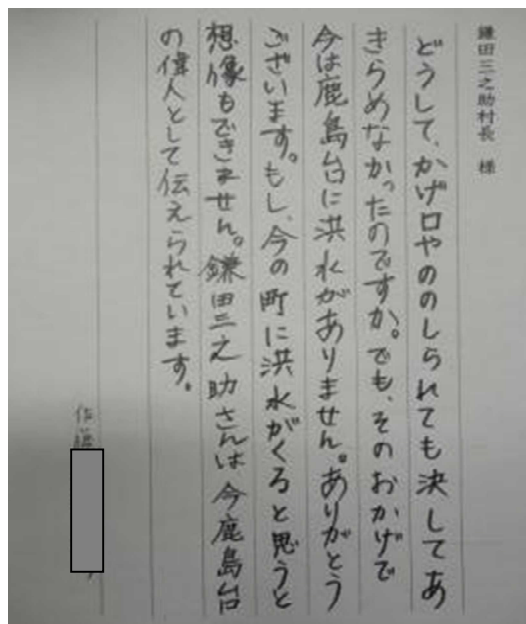
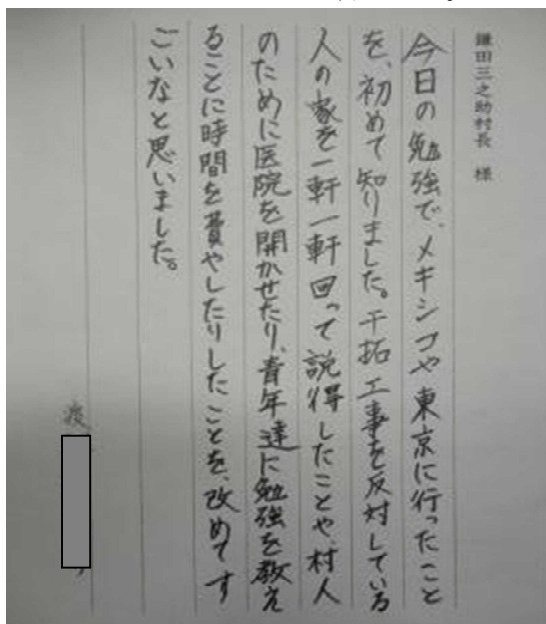
- ・ 鎌田三之助村長の生き方を知り、いま鹿島台で安心して生活できることへの感謝の気持ちをもつと共に、ふるさとの良さを大切にしようとする態度を育てる。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- ・ 鹿島台の自慢や良いところをあげる。
(鎌田三之助村長, 互市, わらじ祭り, デリシャストマト, シナイモツゴ…など)
- ・ みやぎの先人集「未来のへ架け橋」より、『鎌田三之助～沼地を豊かな土地に～』のページを読む。
- ・ 鎌田三之助村長の生き方を知り、感想を発表したり交流したりする。
- ・ 鎌田三之助村長に、今の鹿島台の生活と感謝の気持ちを伝える手紙を書く。
- ・ 未来の鹿島台について想像し、自分たちにできることを考える。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 鎌田三之助村長に宛てた手紙を書く前に、昔から鹿島台が水害で悩まされていたことや、そのことで住民のまとまりが無くなり大変だったことにふれ、鎌田三之助村長への感謝の気持ちをもてるようにする。
- ・ 手紙には「今の鹿島台について」と、「もし鎌田三之助村長が生きていたら伝えたいこと」の2つのポイントについて書かせる。



◎ 実践を振り返って

成果

- ・ 「みやぎの先人集」を活用したことで、児童がこれまでの学習では分からなかった鎌田三之助の努力や功績を知ることができた。
- ・ 自分の考えを発表したり書いたりすることが苦手な児童にとっては、手紙形式は取り組みやすいものだった。

課題

- ・ グループでの学習場面は感想を伝え合うのみで終わってしまい、学び合いにまで発展しなかった。グループ学習の設定場面とテーマの与え方について、工夫が必要である。
- ・ 他教科にも関連させ、未来に向けた自分たちの考え（環境保全や下級生へ伝えるなど）を実際に取り組みせたい。そうすることで、自分の取組についてさらに達成感・充実感を味わえるのではないかと感じる。

領域にかかわる実践事例

美里町立南郷小学校

実践名：「『ふるさと』のために」

鎌田三之助 一沼地を豊かな土地に一

領域：道徳（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年9月13日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・**もとめる**・**はたす**）

地域の先人たちの努力に触れ、困難なことに出会っても簡単にあきらめたりせず、粘り強く努力し続けることの大切さに気付く。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 100年前の南郷も自然の脅威にさらされていたことを知る。

2 鎌田三之助の生き方について話し合う。

○三之助がいた当時の鹿島台はどんな状態だったのかを考える。

○品井沼の干拓工事に反対した人たちはどう思って反対したのかを考える。

○三之助はどんな気持ちで完成した排水路を流れる水を見つめていたのかを考える。

◎なぜ三之助は生涯にわたって鹿島台のためにがんばれたのかを考える。

3 津波被害を受けた地域の方々のVTRを見て、自分たちの生活を振り返る。

○粘り強く努力することの大切さに触れながら、発表する。

◎指導のポイントや手立ての工夫

1 導入で鹿島台と同じような洪水が、明治時代の南郷地区にもあったことを写真等で紹介し、身近な問題としてとらえさせる。

2 当時の人々の生活の苦しさや三之助に反対した人々の無力感・挫折感を想像させ、それでもなお三之助には、その人々を説得させるほどの強い熱意があったことをつかませる。

3 三之助の「ふるさと」への想いが、不とう不屈の精神へとつながっている。困難なことに出会っても、強い気持ちを持って努力することが自分のよりよい生活につながっていくことに気付かせる。

◎ 実践を振り返って

成 果

十分に吟味した資料分析表を作成し、資料の内容について朝読書の際に詳しく読み取る時間を設けたために、三之助の心情に触れながら資料の流れをおさえることができた。

課 題

子供達に当時の困難な状況を、現在の生活に結び付けて考えさせ、社会の中での自己の役割や社会への思いを持たせる工夫が必要であった。

実践名：「タイの学校と交流しよう」

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年7月4日

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる）**・**（もとめる）** **（はたす）**

- ・ インターネットによるテレビ会議を通して、タイのジラサート校の児童とかかわることで異文化理解を図る。
- ・ 学校や地域の良さを見つけ、伝え方を工夫するなどして自分の思いを伝えることができるようにする。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 事前の準備

- ・ 児童と相談しながら、交流の観点を「大貫小学校について」、「授業や教科書について」、「休み時間の過ごし方」、「地域の様子や米作りについて」の4点に決めた。
- ・ 画面でも伝えたいことがより伝わるように、実物や資料を効果的に活用できるように相談しながら準備を進めた。

2 当日の流れ

- ・ お互いの国の言葉であいさつする。
- ・ 学校、授業や教科書、休み時間、地域の4点について、それぞれ発表して質問を受ける。
- ・ 自分たちの米作りや、タイ米や日本米を食べた感想を発表する。
（タイ米と日本米は事前に交換し合い、試食していた。）
- ・ あいさつをして終了する。

3 事後の活動

- ・ 交流したジラサート校の先生が来日した際、本校も訪問した。
- ・ 全校で学校の様子を紹介したり、歌を交歓したりするなどして交流した。またその際、タイのことについての話も聞くことができ、外国について興味・関心を高めることができた。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ これまで教科等で学習してきたことや生活の中で経験してきたことを、整理してまとめさせることで伝えたいという思いを高めることができるようにする。
- ・ 全員が話す機会を設けるとともに、発表の仕方や表現方法を工夫させることで、自分の思いをしっかりと伝えることができるようにする。

◎ 実践を振り返って

成果：初めてのテレビ会議で最初は緊張していたが、通訳を介してではあったが伝える楽しさを味わうことができた。また、日本とタイとの気候や学習についての相違点に気付いたことは、児童の視野を広げることにつながった。

課題：ユネスコスクールとして宮城教育大の支援をいただき実現した国際交流である。今回は初めての交流であったので、自己紹介が主だった内容になった。今後は米作りについて互いが深め合えるような交流を設定していきたい。

その他：ユネスコスクールのRiceプロジェクトに参加できたので、26年度はESD教育を推進する中で国際交流を通して、児童一人一人が夢と希望を持てる志教育の充実を図っていきたい。

実践名：「福祉の町涌谷町の未来」

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ **実施期日（期間）** 平成25年10月24日～平成25年11月1日

◎ **志教育にかかわるねらい** （かかわる） もとめる （はたす）

- ・ 福祉施設「ゆうらいふ」利用者とのふれあいの中で、自己のできることを見つけながら、かかわりを深める。 （かかわる）
- ・ 創意工夫をしながら、自己の役割や分担を果たし人のために役立つ喜びを体験する。 （はたす）

◎ **具体的な学習・活動の流れ**

1 福祉施設「ゆうらいふ」見学（1回目）の計画を立てる。

- ・ ゆうらいふについて知り、1回目の訪問のための計画や準備をする。囲碁や将棋、トランプ等のおもちゃでの遊び、伝統小里獅子舞の披露をして交流の場をもつ。

2 福祉施設「ゆうらいふ」見学（1回目）を行う。

- ・ 職員の方に施設内の主な場所・利用者等について説明を受けながら、福祉施設の利用の様子について見学し、聞き取り調査を行う。
- ・ 利用者と交流し、自分たちにしてほしいこと、利用者の願いについて聞き取り調査を行う。

3 福祉施設訪問（2回目）の計画を立てる。

- ・ 1回目の訪問をもとに、健康への願いをこめて「千羽鶴」、施設に飾ってあった詩をまねて「詩の絵はがき」、利用者の中には乳幼児もいたのでおもちゃとして「パズル」等のプレゼントを作成した。

4 福祉施設訪問（2回目）をする。

- ・ 1回目の訪問の際に「校歌を歌って欲しい」ことや「みんなが獅子に噛まれたい」等の要望があったので、リクエストに応えるため実施した。また、作成したプレゼントを贈呈した。

5 実施後の感想及び改善点についてまとめる。

- ・ グループ毎に実施後の感想や改善点についてまとめた。全員が「ゆうらいふ」へ感謝の手紙を書いて、送った。

◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・ 訪問の機会を2回にすることで、利用者の声を直接聞いた上、見学した上で施設に必要となる物を考えさせたりして利用者の願いを叶える形での福祉体験を行わせた。



◎ **実践を振り返って**

成果 1度目の訪問で施設利用者の様子や願いを学習し、2度目の交流では、1回目の交流を踏まえ、かかわり方を考えて交流を行うことができた。2度の施設訪問を設定したことで、活動に深まりが見られ、施設利用者の方々から大変感謝された。また、子どもたちも人のために役に立てたことに自信をもつことができ、自己有用感が高まり、その後の学校生活でも、まず相手のことを考えて行動に移すことができるようになった。

課題 今回の交流で子どもたちも自信をもって活動することを覚え、また施設の人と交流したいと話している。実施時数の関係で、今回は2度の交流で終わってしまったが、定期的に交流できるよう、年間を通した福祉活動として展開させ、人のために役立つ喜びをさらに高めたい。

領域にかかわる実践事例

大崎市立田尻小学校

実践名：「未来の大崎を考えよう」

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 5月下旬～11月20日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ ふるさと大崎の素晴らしい自然や産業などに触れたり、調べたりすることによって郷土を愛する心を養う。（かかわる）
- ・ ふるさと大崎の素晴らしい自然や産業の学習を通して、ふるさとのよさを生かして未来の大崎市を考え、学級で話し合い、発表し合う。（かかわる・もとめる・はたす）
- ・ 「おおさき子どもサミット」において、田尻小学校として考える「未来の大崎市」について発表する。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- ① 大崎市や田尻に残しておきたいものについて考える。（5月）
 - ・ 大崎市に昔から受け継がれているものについて聞き取り調査等で調べ、学習計画を立てる。
- ② 田尻地域の素晴らしい自然や産業、歴史について調べる。（6月）
 - ・ 田尻地域の名所（大崎八幡神社など）や田尻地域の自然（蕪栗沼など）などを実際に現地に足を運び調べる。
 - ・ 大崎八幡神社の宮司さんの話や蕪栗沼「沼っこクラブ」の方の話の直接聞く。
- ③ 大崎地域の素晴らしい自然や産業、歴史について調べる。（7月）
 - ・ 田尻地域の調べ学習を通して得たふるさとの素晴らしい自然や産業、歴史の学習を中心としながら、大崎市の素晴らしい自然や産業、歴史について本やインターネット、聞き取り調査などで調べる。
- ④ 未来の大崎について考えよう。（9月）
 - ・ 大崎市の素晴らしいものを残し、自分たちが考える素晴らしい未来について考え、まとめる。
 - ・ 学級全体で発表し合い、考えを共有する。そして、田尻小学校として考える「未来の大崎市」についてまとめる。
- ⑤ 「おおさき子どもサミット」でホスト校として運営し、考えを発表しよう。（11月）
 - ・ ホスト校として運営を行い、学級全体で話し合ってきた「未来の大崎市」を「おおさき子どもサミット」のパネルディスカッションで発表する。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 郷土にある素晴らしいものを調べるために人や地域とかかわる交流・体験活動を取り入れる。そして、郷土を守る仕事をしている方々の存在を知らせ、郷土を愛する心を育てる。また、「未来の大崎市」について考え、より一層郷土への愛情を促すと共に、自分たちの将来の在り方を求める。「おおさき子どもサミット」の発表の場面では、自分たちの責任ある役割をしっかりと果たすことができた。

◎ 実践を振り返って

成果

- ・ 大崎八幡神社などの名所やラムサール条約指定の蕪栗沼などの自然を通して、郷土の素晴らしさやそれを誇りに思い守る方々の仕事を学ぶことができた。また、「未来の大崎市」について一人一人が考え、学級で話し合い、練り合う事ができたことは、一人一人の夢や希望を見つめる良い機会になった。

課題

- ・ 地域の良さを調べ、それをもとに「未来の大崎市」を考えたことで「かかわる・もとめる・はたす」という志教育のめあてを達成することができた。今後は、一人一人に焦点を当て、自分自身の将来の夢や希望を明確にする活動へと発展させたい。

領域にかかわる実践事例 大崎市立古川第二小学校

実践名：「杉の子まつり」

領域：特別活動（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年11月15日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ たてわり班ごとに活動し，異学年と仲良く活動しようとする態度を養う。（かかわる）
- ・ 下学年が楽しむことができる企画を考え，自分の役割を自覚し，責任をもって運営しようとする気持ちを育む。〈上学年〉（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 話し合い活動（リーダー会議 → 上学年による話し合い活動）

- ・ たてわり班リーダー会議を開き，全学年が楽しんで活動できる工作を本などからいくつか選ぶ。1年生でも作れるかということを考えながら簡単に作れるものを選ぶ。
- ・ 4，5，6年生でたてわり班ごとに集まり，絞られた工作の種類の中から作りたい物を決定する。また，工作をして時間が残った場合に行う室内ゲームについても，話し合って決める。

2 事前準備

- ・ 6年生は，活動当日に下学年に作り方を教えることができるように試作する。難しいところはどこか，作る際のポイントはどこかをしっかり教えられるように，各クラスでたてわり班ごとに分かれて活動する。
- ・ たてわり班リーダーは，それぞれの班で必要なものを書き出し，それをお便りにして印刷し，たてわり班ごとに配布できるように準備する。
- ・ 業間時間を利用し，たてわり班ごとに全学年集まる。上学年の話し合いで決定した工作について下学年に伝え，持ち物の書かれたお便りを配布する。

3 杉の子まつり当日

- ・ たてわり班ごとに活動する。6年生を中心に，上学年は下学年に作り方を教えたり，難しい所を手伝ってやったり，積極的にかかわろうとする。
- ・ 作ったものでみんなで遊ぶ。異学年間交流を楽しみ，積極的にかかわる。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 物作りを通して，子供たち同士が自然な形でかかわりがもてるようにする。そのためにも作り方など，リーダーだけではなく6年生一人一人が活動内容をしっかり把握しておく必要がある。互いに教え合いながら作り，完成させることで満足感や達成感をもたせるようにする。

◎ 実践を振り返って

成果 昨年度までと形態を変え，たてわり班を使って活動を行ったが，作り方のアドバイスをしたり，手をとって作ってあげたり，異学年同士が積極的にかかわる姿が見られた。自分たちが決めた工作ということもあり，意欲的に取り組む姿が見られ，上学年はしっかりと自分たちの役割を果たした。

課題 初めての試みだったため，事前準備に時間がかかる部分があったので，今後見直しをもって準備を進める必要がある。6年生にだけ負担がかからないように，5年生の活躍の場をもっと広げられるように工夫していきたい。

領域にかかわる実践事例

美里町立北浦小学校

実践名：「ハートフルコンサート」

領域：学校行事（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年9月13日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・**もとめる**・はたす）

- ・ 夢を実現するために努力を重ねた先輩の演奏を鑑賞することで、目標に向かって粘り強く取り組もうとする気持ちを育む。（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

ドイツでヴァイオリニストとして活躍する本校出身の千葉さくらさんに演奏を依頼し、中埜小の児童も招いて「ハートフルコンサート」として演奏会を開いた。

《プログラム》

- 1 (トリオ) グリーク・・・朝の気分
- 2 (トリオ) ブラームス・・・ハンガリー舞曲第5番
- 3 (トリオ) パッフェルベル・カノン
- 4 楽器紹介とソロ演奏
- 5 お話コーナー
- 6 (トリオ) メンデルスゾーン・・・ピアノ三重奏
- 7 (トリオ) 荒井由美・・・ひこうき雲
- 8 (トリオ) 久石譲・・・さんぽ
- 9 (トリオ) +全校児童・・・北浦小校歌



【児童の感想（手紙）】

えんそうしてくれてありがとうございました。わたしのきにいっきょくはカノンです。なめらかでとてもきれいでした。たった3人なのにきょねんのオーケストラよりすごかったです。ほんとうにありがとうございました。

（2年 女子）

いそがしい中、きていただきありがとうございます。ヴァイオリンの音色がきれいでした。さくらさんが北浦小学校出身とは知らなくて、聞いたときびっくりしました。小さいころからの夢がかなうなんてすごいと思います。わたしの夢は、パティシエなので、さくらさんみたくあきらめずにかなえていきたいと思います。

（5年 女子）

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ コンサート前に児童から千葉さんへの質問を出させ、それを「お話コーナー」で取り上げて答えていただいた。また、コンサート後に感想を書かせることで振り返りの機会とした。

《質問》

- ・ 大学入試のとき、どのくらい勉強したのですか。
- ・ ドイツ留学では、どんな勉強をしたのですか。
- ・ ドイツではどんな苦労がありましたか。

◎ 実践を振り返って

成果

児童にとって千葉さんの奏でる音楽そのものの素晴らしさに加えて、本校出身の卒業生であるという事実が大きな刺激となったようであった。

課題

単発のイベントで終わるのでなく、この後も何らかの形で交流し続ける形を考えていきたい。

その他

地域には夢に向かって努力し続けている人や夢を実現した人が千葉さんの他にも多数存在すると考えられる。さらなる人材の発掘に努めていきたい。

実践名：「運動会の練習がんばろう」

教科・領域：体育・学校行事（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年5月

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 1・2年生と一緒にダンスや玉入れの練習に取り組む。全校のみんなと一緒に開会式やリレー・綱引き等の練習に取り組む。（かかわる）
- ・ 自分の目標をもち、それに向けて努力するとともに、自分がどうなりたいかを考えられるようにする。（もとめる）
- ・ 下学年の中で自分たちが一番年上であることを自覚し、1・2年生に教えたり、リードしたりする。（はたす）



◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 地区民合同運動会について知り、目標をもつ。

- ・ 今年度の地区民合同運動会の内容と、児童会で決めたスローガンについて知る。
- ・ 下学年で演じるダンスや、親子競技について知り、自分たちが1・2年生に教えてあげ、良い手本となって取り組んでいく気持ちをもたせ、自分自身の能力を向上させるための目標と、3年生としての目標をもつ。

3 運動会の練習に取り組む。

- ・ 自分自身の目標を達成するための練習計画を立て、一生懸命に練習に取り組む。
- ・ 1～3年の演技や競技が楽しくより良くできるように、下の学年の子に丁寧に教えたり友達と助け合ったりして練習に取り組む。

4 地区民運動会を楽しみながら、最後まで頑張る。

- ・ 自分の目標に少しでも近づけるように、練習の成果をしっかりと出して、最後まで頑張る。
- ・ 自分の組が勝てるように、応援したり励まし合ったりして、友達と一緒に頑張る。
- ・ 3年生として、1・2年生の手助けをしながらみんなで楽しめるようにする。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 教師が導き過ぎずに、子どもたちが自分で目標を立て、それに向かって努力できるように、アドバイスしたり支援したりするようにする。

◎ 実践を振り返って

成果 3年生になった喜びもあってか、進んで下の学年の子に接し、教えたり手伝ったりする姿が見られた。自分自身の目標だけでなく、もう一つの目標があって、より一層頑張ることができたようで、自信につながった子が多かった。

課題 まだまだ自分のことで精一杯の子で、下の学年の子のことまで考えられない子に対しての支援の仕方に課題が残った。

教科・領域にかかわる実践事例 大崎市立真山小学校

実践名：「夏野菜カレー集会」

教科・領域：生活科・総合的な学習の時間（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 9月18日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 自然の恵みに感謝し、ふるさとを愛する心をはぐくむ。（かかわる）
- ・ 祖父母に感謝の気持ちを伝えるとともに、収穫の喜びを味わう。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1. 夏野菜カレーの準備（1～2校時）

- ・ 1～3年生で野菜洗い、皮むきをする。
- ・ 4～6年生で野菜切り、調理を行う。
- ・ 仕上げはPTAの手伝いをいただく。

2. 「おじいさん・おばあさんとふれ合おう」

学年ごとの活動（3校時）

- ・ 1年生……祖父母に昔話を読んでもらった。
- ・ 2年生……感謝の作文、孫のエピソード、肩たたきを行った。
- ・ 3年生……福笑い作りを行い、一緒に遊んだ。
- ・ 4, 5年生…ブーメラン作りを行い、一緒に遊んだ。
- ・ 6年生……修学旅行の報告会を行った。

3. 夏野菜カレー集会（4校時～昼食）

- ・ 農園活動でお世話になった方々への感謝の作文発表
- ・ 敬老作文の発表
- ・ 会食
- ・ 祖父母の方々からの感想

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 目的と意義を理解させ、継続的に行ってきた農園活動のまとめの集会であることを意識させ、農園にかかわってくださった方々への感謝の気持ちをもたせる。
- ・ 祖父母への感謝の気持ちを表す方法を、各学年ごとに工夫させる。



◎ 実践を振り返って

成果

4月から取り組んできた農園活動のまとめとして、この集会を毎年催している。これまでの作業でお世話になった方々への感謝と、祖父母参観を兼ねてふれ合いの絆を深めることができた。

課題

夏野菜カレー集会をより充実させるために、児童が主体的にかかわっていけるように代表委員会等を通して中身を工夫していくことが大切である。

その他

祖父母の方々の中では、目頭を熱くして孫の成長ぶりを見守る姿も見られ、温かみのある会となった。多くの方々のが是非来年も来たいという感想を述べておられ、子どもたちも満足感に包まれていた。

実践名：学習発表会（全校合唱）

教科・領域：音楽科・特別活動（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年10月26日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**、**もとめる**、**はたす**）

- ・ 異学年の交流や地域とのかかわりを通して、互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築く力や社会性、友達を思いやる心、仲間意識を養う。（かかわる）
- ・ よりよい発表に向けて努力し、主体的に練習に取り組む。（もとめる）
- ・ 上級生が下級生に模範を示したり、自分の役割を果たしたりすることによって全体とてすばらしい発表ができるようにする。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 音楽朝会や音楽の授業で歌唱練習をする。

- ・ 9月と10月の音楽朝会で高学年が模範を示しながら、旋律を確認する。
- ・ 各学年が友達の歌い方のよさに気付きながら、音楽の授業で、歌を覚える。

2 学年部ごとにパート練習と表現の練習をする。

- ・ 低・中・高学年に分かれて、お互いの声の出し方の美しさを認め合いながら、音楽の授業で旋律と副旋律の歌い方と歌に合わせた表現の練習をする。

3 学習発表会に向けての全体練習を行う。

- ・ 来場する地域の方や家族を意識して、入退場や待機の仕方などよりよい発表に向けて練習する。
- ・ パートごとの声量の全体的なバランスを意識し、美しいハーモニーのため声の出し方を練習する。

4 学習発表会で全校合唱を発表する。

- ・ 入場から演奏そして退場まで観客に感動してもらえるステージになるように心をつなげて全校で合唱をする。

5 各学年での振り返りと保護者アンケートを行う。

- ・ 自分のめあてを達成することができたか話合いや作文にまとめ、振り返る。
- ・ 保護者アンケートをもとに次年度の改善点を明らかにし、よりよい発表に向けて計画を練り直す。



◎ 指導のポイントと手立ての工夫

- ・ 声の出し方や強弱、ハーモニーなどの歌や動作の表現だけでなく、入退場や待機する様子などすべてを演技ととらえ、全校が気持ちを合わせて堂々と行動できるように指導する。
- ・ 歌も行動も上学年が模範を示すことができるように発達段階に応じた指導を行う。

◎ 実践を振り返って

成果 高学年の美しい声や入退場の歩き方、静かに待つ態度などを見習い、下学年もその目標に向かって頑張る姿が見られた。観客から「感動した」という声も聞かれた。難しい曲だったが、主体的に練習に取り組み、達成感を味わうことができた。

課題 練習開始時期をもう少し早め、より精度の高い合唱を発表できるように努めたい。

その他 互いのよさについて発表できる場を設定し、一人一人がさらに意欲的に活動できるように工夫していきたい。

その他の教育活動にかかわる実践事例

大崎市立高倉小学校

実践名：「夢を実現させるためにチャレンジ」

その他の教育活動（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年 9月20日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・**もとめる**・はたす）

- ・ 困難な状況にあっても、自分の夢をあきらめず挑戦し続けている方のお話を聞くことにより、将来の自分の夢や生き方について考える。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 レーシングドライバーの太田哲也氏について知る。

- ・ 太田哲也氏がレーサーとして活躍していたことをまとめたスポーツ番組やレースで事故に巻き込まれ、瀕死の重傷を負ったことを紹介したビデオを見る。

2 「チャレンジ！ 事故からの再起」と題して、太田哲也氏から話を聞く。

- ・ 太田哲也氏本人から、再起不能といわれながらも厳しいリハビリに絶え、復帰を果たした話を聞く。
- ・ 自分の夢をつかむためには、決してあきらめないことの大切さについて、自身の体験を踏まえた話を聞く。

3 「レーサー・太田哲也の夢をつかむ授業」と題して、夢を実現させるために努力することの大切さについて話を聞く。

4 太田哲也氏の夢や生き方について質問する。

- ・ どうしてレーサーになりたいと思ったのか、レーサーに復帰するまでの間に大変だったことなどの質問をすることで、努力することやあきらめないことの大切さに気付く。

5 話を聞いた感想をまとめ、学級ごとに感想の交流を行う。

- ・ 話を聞いて心に残ったことやこれからの自分の生活に生かしていきたいことについてまとめ、学級で感想の交流を行う。



【太田氏の話聞く】



【太田氏に質問をする】

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 夢に向かって努力することやあきらめないことの大切さを再認識させるために、話を聞いて心に残ったことやこれからの自分の生活に生かしていこうと思うことを友達と交流させる活動を行った。

◎ 実践を振り返って

成果 困難な状況に置かれても、あきらめずチャレンジし続けた太田哲也氏の話聞くことで、自分たちの夢の実現に向けて努力することの大切さに気付くことができた。

課題 今回はレーシングドライバーの太田氏の講演を聞く機会が得られた。今後は、児童にとって、もっと身近な方々からも自分の夢の実現のために努力していることについて話を聞く機会を計画していきたい。

その他の教育活動にかかわる実践事例 大崎市立古川第四小学校

実践名：「朝会 校長先生のお話」

その他の教育活動（全学年）

◎ **実施期日（期間）** 平成25年7月3日・9月4日

◎ **志教育にかかわるねらい（かかわる もとめる はたす）**

大崎市から輩出した先人の偉業について知ることにより、将来の夢や希望をもとうとする気持ちを育む。

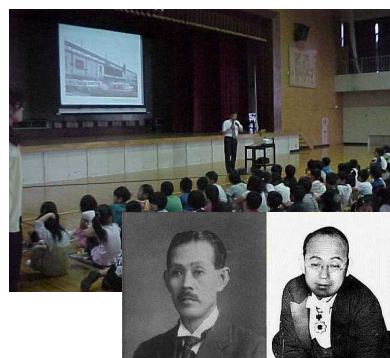
◎ **具体的な学習・活動の流れ**

1 「地元の先人を知ろう1」7月3日（水）

大崎市にゆかりのある先人を写真提示により、クイズ形式で紹介する。

古川十日町出身の大正デモクラシー、民本主義の吉野作造博士と吉野作造博士の弟で、運輸大臣や愛知県知事、参議院議員、大学の学長などをし、活躍された吉野信次氏を紹介する。

地元ですばらしい先人がいることを知らせ、目標をもって頑張ろうとする意欲をもたせる。



2 「地元の先人を知ろう2」9月4日（水）

明治時代に古川の上水道工事に尽力した永澤才吉氏の功績について紹介する。自費を投じて上水道の完成に尽くした永澤氏の「人のために、役立つことをする」という考え方を知らせ、今後の自分の生き方を考えさせる。



◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・ 写真を提示して児童に関心をもたせ、さらにクイズ形式で質問を投げかけながら話す。
- ・ 本校ホームページの「校長室ブログ」にも掲載し、広く家庭へも知らせる。

◎ **実践を振り返って**

成果 地元の先人の偉業を知り、将来への夢や希望をもつことの大切さに気付くことができた。また、人のために役立とうとする姿勢から生き方について考える機会となった。

課題 1～6学年までの発達段階により、話のとらえ方や理解の度合いが異なるので、朝会後に学級での児童に応じた補足・強化が必要である。

その他 本校のホームページに記事と写真を掲載し、志教育の取組を保護者等に紹介し、啓発活動に努めている。

その他の教育活動にかかわる実践事例 大崎市立古川第五小学校

実践名：「表現活動（合唱）への取組」

その他の教育活動（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年4月～平成26年2月

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 児童自らが音楽のよさやおもしろさ、美しさに気づき、友達とかかわり合いながら、主体的に音楽を学び喜びを味わう活動を通して、よりよく人間関係を築く力や社会性を養う。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

4月…合唱曲、オペレッタ題材選定開始

5月…合唱1曲目、オペレッタ練習開始

5月21日（火）外部講師を招いて全学年児童への合唱指導と教員研修会実施

6・7月…合唱、オペレッタ練習

6月10日（月）外部講師を招いて4学年児童へのオペレッタ指導

7月18日（木）外部講師を招いて4学年児童へのオペレッタ指導

9月…合唱2曲目練習開始

9月6日（金）外部講師を招いて4学年児童へのオペレッタ指導

9月30日（月）外部講師を招いて4学年児童へのオペレッタ指導

10月…合唱、オペレッタ練習

10月3日（木）市内音楽会

10月23日（水）外部講師を招いて全学年児童への合唱指導と教員研修会実施

10月25日（金）外部講師を招いて4学年児童へのオペレッタ指導

10月19日（土）学芸会にてオペレッタ発表

11月…自主公開研究会「表現活動発表」（合唱、オペレッタ）

11月13日（水）外部講師を招いて4学年児童へのオペレッタ指導

11月14日（木）外部講師を招いて全学年児童への合唱指導

11月15日（金）自主公開研究会

11月18日（月）合唱を聴き合う会

12月…合唱3曲目練習開始

2月…学習参観後、合唱発表会開催



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 「古五小で取り組みたい合唱曲集Ⅰ・Ⅱ」の中から学年で取り組む曲を選び、美しいメロディーに触れる機会を多く設定し、表現してみたいという意欲を高める。
- ・ 全学年において、1年間継続的に合唱に取り組み、また、4年生においては、音楽会、学芸会も視野に入れ、オペレッタに取り組み、一つのものをみんなで作りあげる喜びを味わわせることで、友達とのかかわりを深める。
- ・ 自己の心を解放させ、各教科で身に付けた表現力を合唱やオペレッタで生かす。

◎ 実践を振り返って

成果 一人一人の心を合わせ、創り上げる喜びやすばらしさを実感した児童が多かった。また、成功体験から自信が付き、授業中も堂々と大きな声で話せる児童が増えてきた。

課題 子供たち同士が教え合ったり、認め合ったりする習慣を付けさせると共に、意見交流の場を適宜設定していかなければならない。

その他の教育活動にかかわる実践事例

色麻町立清水小学校

実践名：「志通信」の発行

その他の教育活動（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年5月より実施

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 学校で行われている教育活動について、「志教育」の視点でどのように取り組んでいるか、またはどのように取り組んでいくかについて教職員で方向性を統一し、各家庭へ取り組みの内容を知らせるとともに啓発活動を行う。
- ・ 行事に取り組むときに、一人一人にしっかりとした目標をもたせ、目標を達成することができるよう意欲的に活動させる。（かかわる・もとめる・はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 全校児童に目標をもたせる

運動会や学習発表会に取り組むときに、全校児童一人一人に目標をもたせ、全校で統一した用紙に書かせる。それらを階段の踊り場に、学年ごと全児童のめあてを掲示した。



掲示した運動会のめあて



これまで発行した志通信

2 志通信を発行する

第1号では、「志教育」について理解してもらうとともに、運動会のめあてを書かせることを知らせた。第2号では、6年生の運動会のめあてを紹介し、学校全体で運動会に向けて頑張ることを伝えた。第4号では、「将来の夢」について全校児童に書かせることを知らせた。第7号では、志教育に係る「6年色麻小との交流会」や「5年米作り」などを紹介し、志教育の視点で取り組んでいる教育活動について知らせた。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 全校児童にそれぞれの行事のめあてや「将来の夢」を書かせ、常に全校児童の目に触れるようにした。自分のめあてや「将来の夢」について常に意識できるよう工夫した。
- ・ 活動の事前・事後に、めあてについて確認しながら、意識を高めるよう工夫して指導に当たった。
- ・ 学校での「志教育」に関わる内容を保護者に知らせ、共通理解を図った。

◎ 実践を振り返って

成果 保護者は、「志通信」を通して、学校の様子を知ることができたため、家庭と学校が互いに励まし合う雰囲気ができた。学校と家庭のつながりが、児童のやる気を引き出し、児童は自信をもって活動することができた。児童にとっては、一人一人の居場所を確認することができ、安心して学校や学級での役割を果たそうと積極的に活動に取り組む姿が見られるようになった。

課題 年間計画を立て、定期的に「志通信」を発行することができなかつたので、発行日を設定したり、計画的に発行したりする等の工夫が必要である。